SUNCORPORATION

通信モジュール一体型ルータ

TELNET 設定機能説明書

http://www.sun-denshi.co.jp/sc/

はじめに

本書では、TELNET を利用したコマンド操作の概要とコマンド書式について記載しております。
本書は、RX シリーズ共通です。お買い上げ頂いた機種と各コマンドの対応関係は、下記の機種マークで表しております。

RX110 RX130 RX160 RX180 RX210

機種マークのある機種のみ、そのコマンドに対応しておりますので、ご確認の上ご使用ください。

全ての機種で対応している場合は、下記の機種マークで表します。

全機種

無線LAN対応について

無線 LAN 対応機種における無線 LAN 機能については、「Rooster RX 取扱説明書（無線 LAN 版）」の TELNET コマンド項目をご覧ください。

目次

1章　Rooster RXのコマンド概要

TELNET で Rooster RX に接続することで、コンソールからコマンド操作による設定の変更や保存、本体の制御などを行うことができます。ここでは、Rooster RX のコマンド概要と TELNET による接続方法、ユーザ補助コマンドなどについて説明します。

1-1 コマンド操作の基本

Rooster RX では、次のコマンドを使用して設定や管理操作を行うことができます。

➲ 基本的なコマンドの詳細については、『2 章　基本コマンド』で説明しています。

コマンド一覧

コマンド	概要	参照先
show	システムの情報を一覧表示します。	➲『2-1　情報を表示する』
set	各種設定を変更します。	➲『2-2　設定を変更／表示する』
get	各種設定内容を表示します。	➲『2-2　設定を変更／表示する』
update	ファームウェア、設定ファイルを更新します。	➲『2-3　情報をアップデートする』
upload	ログファイルを転送します。	➲『2-4　ログファイルを転送する』
ping	ネットワークへの疎通を確認します。	➲『2-5　PING 確認する』
connect	回線に接続します。	➲『2-6-1　回線の接続』
discon	回線を切断します。	➲『2-6-2　回線の切断』
ota	回線の登録をします。 ※ RX160 のみ対応	➲『2-7　回線を登録する』
reset	本体またはモバイル通信端末をリセットします。	➲『2-8　リセットする』
save	設定をフラッシュ ROM に保存します。	➲『2-9　設定をフラッシュ ROM に書き込む』
clear	本体の設定内容やログを消去します。	➲『2-10　情報を消去する』
exit	コンソールを終了します。	➲『2-11　コンソールを終了する』
test	テストコマンドを実行します。 ※ RX130 のみ対応	➲『2-12　テストコマンドを実行する』

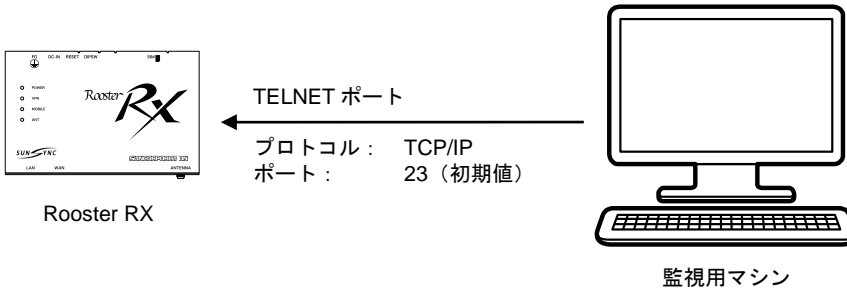
1-2 TELNETでの接続

Rooster RX への TELNET 接続の仕組みと通信手順について説明します。

1-2-1 通信の仕組み

監視用のマシンから、Rooster RX の TELNET ポート（ポート番号：23）に接続し、Rooster RX の制御を行います。

▶ ポート番号は設定により変更できます。

Rooster RX は監視用マシンから入力されたコマンドを受信して処理を行います。また、リザルト（コマンドの実行結果）がある場合は、監視用マシンに送ります。

1-2-2　通信手順

ここでは、TELNET による Rooster RX への接続は、以下の手順で行います。

1. 監視用マシンより、Rooster RX の TELNET ポートに接続します。
   ▶ 工場出荷時は、23 番に設定されています。

2. ログイン名とパスワードを入力して、Rooster RX にログインします。
   ▶ 工場出荷時の状態では、ログイン名に「admin」、パスワードに「1234」が設定されています。
   なお、パスワードは、パスワード設定コマンド（set password）で変更できます。

   接続例(RX110 の場合):

```
> telnet 192.168.62.1 23 ↵          ←TELNET 接続

login : admin ↵                     ←ログイン名を入力
password : 1234 ↵                   ←パスワードを入力（非表示）
Welcome Rooster maintenance console.
system version : RRX110-1.2.0, Nov 28 2013 22:00:18
```

3. Rooster RX から、プロンプトが送信されます。

```
RX>                                 ←プロンプトが表示される
```

4. 監視マシンからコマンドを送信します。

5. Rooster RX から、リザルト（コマンドの実行結果）が出力されます。

➲ 手順 3 へ戻る

通信を終了するには、コンソールの終了コマンド（exit）を使用してください。

1-2-3　通信フォーマット

通信フォーマットについて記述します。

- コマンド（監視マシン→Rooster RX）

コマンド	CR（改行）

▶ コマンドの詳細は、2 章以降で説明します。

- プロンプト（Rooster RX→監視マシン）

CR（改行）	LF（復帰）	R	X	>	␣

▶「␣」は半角スペースを意味しています。

- リザルト（Rooster RX→監視マシン）

リザルト	CR（改行）	LF（復帰）

▶ リザルトの詳細は、2 章以降で説明します。

1-3 ユーザ補助コマンド

コマンド操作をする上で役に立つ補助コマンドについて説明します。

1-3-1　コマンド一覧の表示

全機種

機能	コマンド一覧を表示します。
コマンド	?
パラメータ	なし
動作	実行例： ```RX> ?``` ←?を入力 [update - アップデート ←コマンド一覧が表示される upload - アップロード set - 設定を登録 get - 設定の表示 connect - 接続 discon - 切断 ping - pingを実行 show - 情報の表示 clear - 情報の削除 reset - 再起動 save - 設定を不揮発メモリに保存 exit - telnet 終了] RX> RX> show ? ←コマンド名に続けて?を入力 [serialnum - シリアル番号表示 ←コマンド一覧が表示される mac - MAC アドレス表示 arp - ARP キャッシュ表示 date - システム時刻表示 config - 現在の設定一覧を表示 templ - 温度センサーの温度を表示 volt - 電源電圧の電圧を表示 mobile - モバイル通信端末の状態表示 status - ステータスの表示 log - ログの表示] RX> show
備考	このコマンドは、?を入力した時点で動作します。

1-3-2　コマンドの入力補完

全機種

機能	入力途中のコマンドを補完します。
コマンド	Tab キーまたは?
パラメータ	なし
動作	Tab キーで補完する場合の実行例： RX> sh Tab ←文字を入力して Tab キーを入力 RX> show ←コマンドが補完される ?キーで補完する場合の実行例： RX> sh? ←文字を入力して?を入力 RX> show ←コマンドが補完される
備考	このコマンドは、Tab キーまたは?を入力した時点で動作します。

2章　基本コマンド

この章では、Rooster RX の設定内容の表示／変更、本体の制御といった操作を行うための基本コマンドについて説明します。

2-1 情報を表示する

show コマンドを実行すると、Rooster RX の情報を表示することができます。

➲ show コマンドの具体的な実行例と出力内容については、『4 章　情報表示コマンドの詳細』で説明しています。

表示できる設定内容

情報	概要	参照先
MAC アドレス	MAC アドレス情報を表示します。	➲『4-1　MAC アドレスを表示する』
設定一覧	現在のすべての設定の一覧を表示します。	➲『4-2　すべての設定内容を表示する』
ARP キャッシュ	ARP テーブルを表示します。	➲『4-3　ARP テーブルを表示する』
モバイル通信端末情報	モバイル通信端末の電話番号などの情報とアンテナレベル、緊急速報情報(※ RX130 のみ)を表示します。	➲『4-4　モバイル通信端末の情報を表示する』
位置測位	位置測位情報を表示します。(※ RX160 のみ)	➲『4-4-6　位置測位情報を表示する』
電波周波数	モバイル通信端末が使用している電波の周波数を表示します。(※ RX110 RX180 RX210 のみ)	➲『4-4-7　使用周波数を表示する』
ネットワークサービス	モバイル通信端末が使用しているネットワークサービスを表示します。(※ RX210 のみ)	➲『4-4-8　使用ネットワークサービスを表示する』
ログ	ログを表示します。	➲『4-5　ログを表示する』
ステータス	ステータスを表示します。	➲『4-6　ステータスを表示する』
温度情報	温度センサーの温度情報を表示します。	➲『4-7　温度情報を表示する』
電源電圧情報	電源電圧の電圧情報を表示します。	➲『4-8　電源電圧情報を表示する』
シリアル番号	Rooster RX のシリアル番号を表示します。	➲『4-9　シリアル番号を表示する』
日時	日時情報を表示します。	➲『4-10　日時情報を表示する』

2-2 設定を変更／表示する

set コマンドと get コマンドは、設定を変更／表示するためにセットで用意されているコマンドです。

➲ set コマンドと get コマンドの具体的な実行例については、『3 章　設定変更／表示コマンドの詳細』で説明しています。

設定内容

分類	概要	参照先
パスワード	本体のパスワードを設定します。	➲『3-1　パスワードを設定する』
メール	メールのサーバやアカウント情報を設定します。	➲『3-2　メールの設定をする』
自動電源の ON／OFF 機能	電源を自動で ON／OFF する場合は、時刻や時間間隔などを設定します。	➲『3-3　自動電源の ON／OFF 設定をする』
LAN	LAN の IP アドレスとサブネットマスクを設定します。	➲『3-4　LAN の IP アドレスを設定する』
WAN	WAN を使用する場合は、WAN の動作モード、アドレス、DNS、PPPoE などを設定します。	➲『3-5　WAN の設定をする』
モバイル通信端末	モバイル通信端末を使用する場合は、ダイヤルアップ、RAS やネットワークサービスなどの設定をします。	➲『3-6　モバイル通信端末の設定をする』
サービス	アドレス解決、DNS、DHCP などを設定します。また、TELNET、Web、SNMP などのサービスを設定します。	➲『3-7　サービスの設定をする』
ネットワーク	IPsec、PPTP、フィルタリング、ルーティング、DMZ などのネットワーク設定をします。	➲『3-8　ネットワークの設定をする』
日時	システムの日時を設定します。自動で時刻を取得して更新することもできます。	➲『3-9　日時の設定をする』
おやすみモード	おやすみモードを使用する場合は、待機時間やスケジュールリストなどを設定します。	➲『3-10　おやすみモードの設定をする』
即時反映フラグ	設定を即時に反映させるかどうかのフラグを設定します。	➲『3-11　即時反映フラグを設定する』

2-3 情報をアップデートする

update コマンドを実行すると、Rooster RX のファームウェアや設定ファイルの内容を更新したり、ログファイルを転送したりすることができます。

2-3-1　ファームウェアの更新(FTP)

全機種

機能	FTP を使用してファームウェアを更新します。
コマンド	update firm ftp
パラメータ	第 1 パラメータ：　FTP サーバの IP アドレス 第 2 パラメータ：　ファームウェアのイメージファイル名 第 3 パラメータ：　ユーザ名 第 4 パラメータ：　パスワード
動作	実行例： RX> update firm ftp 192.168.62.51 rooster.img user pass ↵ ↑コマンドを入力 ファームウェアをアップデートします。よろしいですか？ [y(yes) or n(no)] : y ↵ ダウンロードします...　↑y を入力 書き込みを行います... ファームウェアのアップデートが完了しました。システムを再起動してください。 RX>

2-3-2　ファームウェアの更新(TFTP)

全機種

機能	TFTP を使用してファームウェアを更新します。
コマンド	update firm tftp
パラメータ	第 1 パラメータ：　TFTP サーバの IP アドレス 第 2 パラメータ：　ファームウェアのイメージファイル名
動作	実行例： RX> update firm tftp 192.168.62.51 rooster.img ↵ ↑コマンドを入力 ファームウェアをアップデートします。よろしいですか？ [y(yes) or n(no)] : y ↵ ダウンロードします...　↑y を入力 書き込みを行います... ファームウェアのアップデートが完了しました。システムを再起動してください。 RX>
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.1.0 以降	

2-3-3　設定ファイルの更新(FTP)

全機種

機能	FTP を使用して設定ファイルを更新します。
コマンド	update config ftp
パラメータ	第 1 パラメータ：　FTP サーバの IP アドレス 第 2 パラメータ：　コンフィグファイル名 第 3 パラメータ：　ユーザ名 第 4 パラメータ：　パスワード
動作	実行例： RX> update config ftp 192.168.62.51 rooster.cfg user pass ↵ ダウンロードします...　　↑コマンドを入力 書き込みを行います... コンフィグのアップデートが完了しました。 RX>

2-3-4　設定ファイルの更新(TFTP)

全機種

機能	TFTP を使用して設定ファイルを更新します。
コマンド	update config tftp
パラメータ	第 1 パラメータ：　TFTP サーバの IP アドレス 第 2 パラメータ：　コンフィグファイル名
動作	実行例： RX> update config tftp 192.168.62.51 rooster.cfg ↵ ダウンロードします...　　↑コマンドを入力 書き込みを行います... コンフィグのアップデートが完了しました。 RX>
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.1.0 以降	

2-4 ログファイルを転送する

upload コマンドを使用して、ログファイルを指定の FTP サーバに転送することができます。

全機種

機能	ログファイル（ZIP ファイル）を転送します。
コマンド	upload log ftp
パラメータ	第 1 パラメータ：　FTP サーバの IP アドレス 第 2 パラメータ：　ログファイル名 ▶拡張子（.zip）は自動で付加されます。 第 3 パラメータ：　ユーザ名 第 4 パラメータ：　パスワード
動作	実行例： RX> upload log ftp 192.168.62.51 userlog user pass ↵ RX>　　↑コマンドを入力

2-5 PING確認する

ping コマンドを使用して、ネットワークの疎通確認をすることができます。　全機種

機能	ネットワークの疎通確認をします。
コマンド	ping
パラメータ	第 1 パラメータ：　ping を実行する対象のアドレス
動作	実行例： RX> ping 192.168.62.50 ↵　←コマンドを入力 処理中です...　←実行結果が表示される PING 192.168.62.50 (192.168.62.50): 56 data bytes 4 bytes from 192.168.62.50: icmp_seq=0 ttl=128 time=0.0 ms 4 bytes from 192.168.62.50: icmp_seq=1 ttl=128 time=0.0 ms 4 bytes from 192.168.62.50: icmp_seq=2 ttl=128 time=0.0 ms 4 bytes from 192.168.62.50: icmp_seq=3 ttl=128 time=0.0 ms 4 bytes from 192.168.62.50: icmp_seq=4 ttl=128 time=0.0 ms -- 192.168.62.50 ping statistics --- 5 packets transmitted, 5 packets received, 0% packet loss round-trip min/avg/max = 0.0/0.0/0.0 ms RX>

2-6 回線を接続／切断する

コマンドを使用して、指定された回線へ接続したり切断したりすることができます。

2-6-1　回線の接続

全機種

機能	指定した回線に接続します。
コマンド	connect
パラメータ	第 1 パラメータ：　回線（mobile、ipsec、wan） 第 2 パラメータ：　設定番号（1〜16） ▶第 1 パラメータで ipsec を選択した場合にのみ指定します。
動作	モバイル通信端末に接続する場合： RX> connect mobile ↵　　←コマンドを入力 RX> IPsec 接続する場合： RX> connect ipsec 1 ↵　　←コマンドを入力 RX> WAN に接続する場合： RX> connect wan ↵　　←コマンドを入力 RX>
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.3.0 以前	

機能	指定した回線に接続します。
コマンド	connect
パラメータ	第 1 パラメータ：　回線（mobile、ipsec、wan） 第 2 パラメータ：　設定番号（1〜8 or 1〜16） ▶第 1 パラメータで mobile を選択した場合、第 2 パラメータに 1〜8 を指定します。第 2 パラメータを省略した場合は、自動的に設定番号 1 で接続します。 ▶第 1 パラメータで ipsec を選択した場合、第 2 パラメータに 1〜16 を指定します。 ▶第 1 パラメータで wan を選択した場合、第 2 パラメータは指定しません。
動作	モバイル通信端末に接続する場合： RX> connect mobile 1↵　　←コマンドを入力 RX> IPsec 接続する場合： RX> connect ipsec 1 ↵　　←コマンドを入力 RX> WAN に接続する場合： RX> connect wan ↵　　←コマンドを入力 RX>
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降	

2-6-2　回線の切断

全機種

<table>
<tr><td>機能</td><td>指定した回線を切断します。</td></tr>
<tr><td>コマンド</td><td>discon</td></tr>
<tr><td>パラメータ</td><td>第 1 パラメータ：　回線（mobile、ipsec、pptp、wan）
第 2 パラメータ：　設定番号（1〜16）
▶第 1 パラメータで ipsec または pptp を選択した場合にのみ指定します。</td></tr>
<tr><td>動作</td><td>モバイル通信端末を切断する場合：
RX> discon mobile ↵　　←コマンドを入力
RX>
IPsec を切断する場合：
RX> discon ipsec 1 ↵　　←コマンドを入力
RX>
WAN を切断する場合：
RX> discon wan ↵　　←コマンドを入力
RX>
PPTP を切断する場合：
RX> discon pptp 1 ↵　　←コマンドを入力
RX></td></tr>
<tr><td colspan="2">※対象ファームウェアバージョン：Version 1.3.0 以前</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>機能</td><td>指定した回線を切断します。</td></tr>
<tr><td>コマンド</td><td>discon</td></tr>
<tr><td>パラメータ</td><td>第 1 パラメータ：　回線（mobile、ipsec、pptp、l2tp_ipsec、wan）
第 2 パラメータ：　設定番号（1〜16）
▶第 1 パラメータで ipsec、pptp、l2tp_ipsec を選択した場合にのみ指定します。</td></tr>
<tr><td>動作</td><td>モバイル通信端末を切断する場合：
RX> discon mobile ↵　　←コマンドを入力
RX>
IPsec を切断する場合：
RX> discon ipsec 1 ↵　　←コマンドを入力
RX>
WAN を切断する場合：
RX> discon wan ↵　　←コマンドを入力
RX>
PPTP を切断する場合：
RX> discon pptp 1 ↵　　←コマンドを入力
RX>
L2TP/IPsec を切断する場合：
RX> discon l2tp_ipsec 1 ↵ ←コマンドを入力
RX></td></tr>
<tr><td colspan="2">※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降</td></tr>
</table>

2-7 回線を登録する

コマンドを使用して、回線の登録をすることができます。

RX160

機能	回線の登録をします。
コマンド	ota otasp
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> ota otasp ↵　　←コマンドを入力 RX>

2-8 リセットする

reset コマンドを使用して、本体をリセットしたり、モバイル通信端末の電源を入れ直したりすることができます。

2-8-1　本体のリセット

全機種

機能	コマンドの入力後に実行確認が行われると、本体はリセットし、コールドスタートします。
コマンド	reset system
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> reset system ↵　　←コマンドを入力 システムをリセットしてよろしいですか？ [y(yes) or n(no)] : y ↵　　←y を入力 RX>　　←リセットされる

2-8-2　モバイル通信端末の電源入れ直し

全機種

機能	モバイル通信端末の電源を入れ直します。
コマンド	reset mobile
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> reset mobile ↵　　←コマンドを入力 OK RX>
備考	モバイル通信端末が待受中の場合にのみ実行可能です。 電源の入れ直しに成功した場合は、「OK」と出力されます。 電源の入れ直しに失敗した場合は、「ERROR」と出力されます。

2-9 設定をフラッシュROMに書き込む

設定をフラッシュ ROM に書き込むには、save コマンドを使用します。

全機種

機能	設定した内容をフラッシュ ROM に書き込みます。
コマンド	save
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> save ↵　　←コマンドを入力 設定を保存します... RX>

2-10 情報を消去する

clear コマンドを使用して、設定内容やログを消去することができます。

2-10-1 すべての設定内容の消去

全機種

機能	設定内容をすべて消去し、工場出荷時の状態に戻します。
コマンド	clear config
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> clear config ↵　　←コマンドを入力 設定を初期化します。よろしいですか？ [y(yes) or n(no)] : y ↵　←y を入力 設定を保存します... RX>

2-10-2 ログの消去

全機種

機能	ログを消去します。
コマンド	clear log
パラメータ	第 1 パラメータ： ログクリア対象（all、session、block、mobile、wan、ipsec、pptp、l2tp_ipsec、address、dhcp、hb、system、ppp）
動作	実行例： RX> clear log ipsec ↵　　←コマンドを入力 RX>
※第 1 パラメータの l2tp_ipsec は、Version 1.4.0 以降	

2-10-3 緊急速報受信件数の消去

RX130

機能	新たに受信した緊急速報の件数をクリアします。
コマンド	`clear mobile warnmsg count`
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> clear mobile warnmsg count ↵　←コマンドを入力 RX>
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

2-11 コンソールを終了する

コンソールを終了するには、exit コマンドを実行します。

全機種

機能	コンソールを終了します。
コマンド	`exit`
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> exit ↵　←コマンドを入力 RX>

2-12 テストコマンドを実行する

テストコマンドを実行するには、test コマンドを実行します。

2-12-1 緊急速報の受信テスト

RX130

機能	緊急速報の受信テストを行う。
コマンド	`test warnmsg`
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> test warnmsg ↵　←コマンドを入力 緊急速報の受信テストを 30 秒後に行います。 RX>
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

3章　設定変更／表示コマンドの詳細

この章では、Rooster RX の設定内容を設定／取得するための set／get コマンドの書式、パラメータ、実行例、初期値について説明します。

3-1 パスワードを設定する

3-1-1　本体のパスワード

設定

全機種

機能	本体のパスワードを設定します。
コマンド	set password
パラメータ	第 1 パラメータ：　パスワード文字列（半角 16 文字までの文字列）
動作	実行例： RX> set password 1234 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	1234

取得

全機種

機能	本体のパスワードを取得します。
コマンド	get password
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get password ↵　　←コマンドを入力 1234　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-2 メールの設定をする

3-2-1　メールアカウントの種別

設定

全機種

機能	メールアカウントの種別を設定します。
コマンド	`set mail type`
パラメータ	第 1 パラメータ：　種別（0：POP before SMTP、1：ユーザ認証 SMTP(暗号化なし)、2:ユーザ認証 SMTP over SSL、3:ユーザ認証 SMTP STARTTLS）
動作	実行例： RX> set mail type 0 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	0

取得

全機種

機能	メールアカウントの種別の設定値を取得します。
コマンド	`get mail type`
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mail type ↵　　←コマンドを入力 0　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-2-2　SMTPサーバ

設定

全機種

機能	SMTP サーバを設定します。
コマンド	`set mail smtp`
パラメータ	第 1 パラメータ：　SMTP サーバ名
動作	実行例： RX> set mail smtp mail.abc.ne.jp ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	なし

取得

全機種

機能	SMTP サーバの設定値を取得します。
コマンド	`get mail smtp`
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mail smtp ↵　　←コマンドを入力 mail.abc.ne.jp　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-2-3 POP3サーバ

設定

全機種

機能	POP3 サーバを設定します。
コマンド	set mail pop
パラメータ	第 1 パラメータ： POP3 サーバ名
動作	実行例： RX> set mail pop mail.abc.ne.jp ↵ ←コマンドを入力 RX>
初期値	なし

取得

全機種

機能	POP3 サーバの設定値を取得します。
コマンド	get mail pop
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mail pop ↵ ←コマンドを入力 mail.abc.ne.jp ←現在の設定内容が出力される RX>

3-2-4 メールアカウント名

設定

全機種

機能	メールアカウント設定のアカウント名を設定します。
コマンド	set mail user
パラメータ	第 1 パラメータ： アカウント名（半角 64 文字までの文字列）
動作	実行例： RX> set mail user abcdefg ↵ ←コマンドを入力 RX>
初期値	なし

取得

全機種

機能	メールアカウント設定のアカウント名の設定値を取得します。
コマンド	get mail user
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mail user ↵ ←コマンドを入力 abcdefg ←現在の設定内容が出力される RX>

3-2-5　メールアカウントのパスワード

設定

全機種

機能	メールアカウントのパスワードを設定します。
コマンド	set mail password
パラメータ	第 1 パラメータ：　パスワード（半角 64 文字までの文字列）
動作	実行例： RX> set mail password pass001 ↵　←コマンドを入力 RX>
初期値	なし

取得

全機種

機能	メールアカウントのパスワードの設定値を取得します。
コマンド	get mail password
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mail password ↵　←コマンドを入力 pass001　←現在の設定内容が出力される RX>

3-2-6　メール送信ポート

設定

全機種

機能	メール送信ポート設定のポート番号を設定します。
コマンド	set mail smtpport
パラメータ	第 1 パラメータ：　ポート番号（1〜65535）
動作	実行例： RX> set mail smtpport 587 ↵　←コマンドを入力 RX>
初期値	25

取得

全機種

機能	メール送信ポート設定のポート番号を取得します。
コマンド	get mail smtpport
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mail smtpport ↵　←コマンドを入力 587　←現在の設定内容が出力される RX>

3-3 自動電源のON／OFF設定をする

3-3-1　自動電源ON／OFF機能の使用（ハードウェア）

設定

全機種

機能	Rooster RX のハードウェアにおける自動電源 OFF／ON 機能を使用するかどうかを設定します。
コマンド	`set autoreboot hard use`
パラメータ	第 1 パラメータ：　使用設定（0：使用しない、1：使用する）
動作	実行例： `RX> set autoreboot hard use 1 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0

取得

全機種

機能	Rooster RX のハードウェアにおける自動電源 OFF／ON 機能を使用するかどうかを表示します。
コマンド	`get autoreboot hard use`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get autoreboot hard use ↵`　←コマンドを入力 `1`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-3-2　自動電源ON／OFF機能の使用（ソフトウェア）

設定

全機種

機能	Rooster RX のソフトウェアにおける自動電源 OFF／ON 機能を使用するかどうかを設定します。
コマンド	`set autoreboot soft use`
パラメータ	第 1 パラメータ：　使用設定（0：使用しない、1：使用する、2：使用する（回線接続中も行う））
動作	実行例： `RX> set autoreboot soft use 2 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0

取得

全機種

機能	Rooster RX のソフトウェアにおける自動電源 OFF／ON 機能を使用するかどうかの設定を表示します。
コマンド	`get autoreboot soft use`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get autoreboot soft use ↵`　←コマンドを入力 `2`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-3-3　自動電源ON／OFF機能の間隔／時刻指定（ソフトウェア）

設定

全機種

機能	Rooster RX のソフトウェアにおける自動電源 OFF／ON を日数（間隔）で行うか時刻指定で行うか設定します。
コマンド	`set autoreboot soft timeapo`
パラメータ	第 1 パラメータ：　日数または時刻指定（0：日数、1：時刻指定）
動作	実行例： `RX> set autoreboot soft timeapo 1 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0

取得

全機種

機能	Rooster RX のソフトウェアにおける自動電源 OFF／ON を日数（間隔）で行うか時刻指定で行うかの設定を取得します。
コマンド	`get autoreboot soft timeapo`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get autoreboot soft timeapo ↵`　←コマンドを入力 `1`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-3-4　自動電源ON／OFF機能の時間間隔設定

設定

全機種

機能	Rooster RX の自動電源 OFF／ON 機能の時間間隔を設定します。
コマンド	ハードウェア機能使用：　`set autoreboot hard interval` ソフトウェア機能使用：　`set autoreboot soft interval`
パラメータ	第 1 パラメータ：　時間間隔（1～7 単位：日）
動作	実行例： `RX> set autoreboot hard interval 1 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	1

取得

全機種

機能	Rooster RX の自動電源 OFF／ON 機能の時間間隔を取得します。
コマンド	ハードウェア機能使用：　`get autoreboot hard interval` ソフトウェア機能使用：　`get autoreboot soft interval`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get autoreboot hard interval ↵`　←コマンドを入力 `1`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-3-5　自動電源ON／OFF機能の動作時刻設定（ソフトウェア）

設定

全機種

機能	Rooster RX のソフトウェアにおける自動電源 OFF／ON の動作時刻を設定します。
コマンド	`set autoreboot soft timeset`
パラメータ	第 1 パラメータ：　時刻
動作	午後 3：00 に設定する場合の実行例： `RX> set autoreboot soft timeset 1500 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0000

取得

全機種

機能	Rooster RX のソフトウェアにおける自動電源 OFF／ON の動作時刻を取得します。
コマンド	`get autoreboot soft timeset`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get autoreboot soft timeset ↵`　←コマンドを入力 `1500`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-3-6　自動電源ON／OFF機能の動作タイミング設定（ソフトウェア）

設定

全機種

機能	Rooster RX のソフトウェアにおける自動電源 OFF／ON の動作のタイミングを設定します。
コマンド	`set autoreboot soft weekapo`
パラメータ	第 1 パラメータ：　日にち（0：毎日、1：曜日指定）
動作	実行例： `RX> set autoreboot soft weekapo 1 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0

取得

全機種

機能	Rooster RX のソフトウェアにおける自動電源 OFF／ON の動作のタイミングを取得します。
コマンド	`get autoreboot soft weekapo`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get autoreboot soft weekapo ↵`　←コマンドを入力 `1`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-3-7 自動電源ON／OFF機能の曜日設定（ソフトウェア）

設定

全機種

機能	Rooster RX のソフトウェアにおける自動電源 OFF／ON の曜日を設定します。
コマンド	`set autoreboot soft`
パラメータ	第 1 パラメータ： 曜日（月：mon、火：tue、水：wed、木：thu、金：fri、土：sat、日：sun） 第 2 パラメータ： 実行の有無（無効：0、実行：1）
動作	曜日を月曜日に設定する場合の実行例： `RX> set autoreboot soft mon 1 ↵` ←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0

取得

全機種

機能	Rooster RX のソフトウェアにおける自動電源 OFF／ON の曜日を取得します。
コマンド	`get autoreboot soft`
パラメータ	第 1 パラメータ： 曜日（月：mon、火：tue、水：wed、木：thu、金：fri、土：sat、日：sun）
動作	実行例： `RX> get autoreboot soft mon ↵` ←コマンドを入力 `1` ←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-4 LANのIPアドレスを設定する

3-4-1　LANのIPアドレス

設定

全機種

機能	LAN の IP アドレスを設定します。
コマンド	`set lan ip`
パラメータ	第 1 パラメータ：　IP アドレス（xxx.xxx.xxx.xxx）
動作	実行例： RX> set lan ip 192.168.62.1 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	192.168.62.1

取得

全機種

機能	LAN の IP アドレスの設定値を取得します。
コマンド	`get lan ip`
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get lan ip ↵　　←コマンドを入力 192.168.62.1　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-4-2　LANのサブネットマスク

設定

全機種

機能	LAN のサブネットマスクを設定します。
コマンド	`set lan subnet`
パラメータ	第 1 パラメータ：　サブネットマスク（xxx.xxx.xxx.xxx）
動作	実行例： RX> set lan subnet 255.255.255.0 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	255.255.255.0

取得

全機種

機能	LAN のサブネットマスクの設定値を取得します。
コマンド	`get lan subnet`
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get lan subnet ↵　　←コマンドを入力 255.255.255.0　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-5 WANの設定をする

3-5-1　WANの使用

設定

全機種

機能	WAN を使用するかどうかを設定します。
コマンド	set wan use
パラメータ	第 1 パラメータ：　使用設定（0：使用しない、1：使用する）
動作	実行例： RX> set wan use 0 ↵　←コマンドを入力 RX>
初期値	1

取得

全機種

機能	WAN 使用設定の設定値を取得します。
コマンド	get wan use
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get wan use ↵　←コマンドを入力 0　←現在の設定内容が出力される RX>

3-5-2　WANの動作モード

設定

全機種

機能	WAN の動作モードを設定します。
コマンド	set wan mode
パラメータ	第 1 パラメータ：　動作モード（0：IP 自動取得、1：IP 手動設定、2：PPPoE、3：LAN として使用）
動作	実行例： RX> set wan mode 0 ↵　←コマンドを入力 RX>
初期値	0
※第 1 パラメータ（動作モード）の「3：LAN として使用」は、ファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

取得

全機種

機能	WAN の動作モードの設定値を取得します。
コマンド	get wan mode
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get wan mode ↵　←コマンドを入力 0　←現在の設定内容が出力される RX>

3-5-3　WANのIPアドレス

設定

全機種

機能	WAN の IP アドレスを設定します。
コマンド	`set wan ip`
パラメータ	第 1 パラメータ：　IP アドレス（xxx.xxx.xxx.xxx）
動作	実行例： `RX> set wan ip 192.168.1.1 ↵`　　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	なし

取得

全機種

機能	WAN の IP アドレスを取得します。
コマンド	`get wan ip`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get wan ip ↵`　　←コマンドを入力 `192.168.1.1`　　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-5-4　WANのサブネットマスク

設定

全機種

機能	WAN のサブネットマスクを設定します。
コマンド	`set wan subnet`
パラメータ	第 1 パラメータ：　サブネットマスク（xxx.xxx.xxx.xxx）
動作	実行例： `RX> set wan subnet 255.255.255.0 ↵`　　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	なし

取得

全機種

機能	WAN のサブネットマスクを取得します。
コマンド	`get wan subnet`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get wan subnet ↵`　　←コマンドを入力 `255.255.255.0`　　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-5-5　WANのデフォルトゲートウェイ

設定

全機種

機能	WAN のデフォルトゲートウェイの IP アドレスを設定します。
コマンド	`set wan gw`
パラメータ	第 1 パラメータ：　ゲートウェイのアドレス（xxx.xxx.xxx.xxx）
動作	実行例： RX> set wan gw 192.168.1.100 ↵　←コマンドを入力 RX>
初期値	なし

取得

全機種

機能	WAN のデフォルトゲートウェイの IP アドレスを取得します。
コマンド	`get wan gw`
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get wan gw ↵　←コマンドを入力 192.168.1.100　←現在の設定内容が出力される RX>

3-5-6　プライマリDNSサーバ

設定

全機種

機能	プライマリ DNS サーバの IP アドレスを設定します。
コマンド	`set wan dns1`
パラメータ	第 1 パラメータ：　プライマリ DNS サーバのアドレス（xxx.xxx.xxx.xxx）
動作	実行例： RX> set wan dns1 192.168.1.101 ↵　←コマンドを入力 RX>
初期値	なし

取得

全機種

機能	プライマリ DNS サーバの IP アドレスを取得します。
コマンド	`get wan dns1`
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get wan dns1 ↵　←コマンドを入力 192.168.1.101　←現在の設定内容が出力される RX>

3-5-7　セカンダリDNSサーバ

設定

全機種

機能	セカンダリ DNS サーバの IP アドレスを設定します。
コマンド	`set wan dns2`
パラメータ	第 1 パラメータ：　セカンダリ DNS サーバのアドレス（xxx.xxx.xxx.xxx）
動作	実行例： RX> set wan dns2 192.168.1.102 ↵　←コマンドを入力 RX>
初期値	なし

取得

全機種

機能	セカンダリ DNS サーバの IP アドレスを取得します。
コマンド	`get wan dns2`
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get wan dns2 ↵　←コマンドを入力 192.168.1.102　←現在の設定内容が出力される RX>

3-5-8　PPPoEのアカウント名

設定

全機種

機能	PPPoE のアカウント名を設定します。
コマンド	`set wan id`
パラメータ	第 1 パラメータ：　アカウント名（半角 64 文字までの文字列）
動作	実行例： RX> set wan id user ↵　←コマンドを入力 RX>
初期値	なし

取得

全機種

機能	PPPoE のアカウント名を取得します。
コマンド	`get wan id`
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get wan id ↵　←コマンドを入力 user　←現在の設定内容が出力される RX>

3-5-9　PPPoEのパスワード

設定

全機種

機能	PPPoE のパスワードを設定します。
コマンド	`set wan password`
パラメータ	第 1 パラメータ：　パスワード（半角 64 文字までの文字列）
動作	実行例： `RX> set wan password pass ↵`　　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	なし

取得

全機種

機能	PPPoE のパスワードを取得します。
コマンド	`get wan password`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get wan password ↵`　　←コマンドを入力 `pass`　　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-5-10 NATの使用

設定

全機種

機能	NAT を使用するかどうかを設定します。
コマンド	`set wan nat`
パラメータ	第 1 パラメータ：　使用設定（0：使用しない、1：使用する）
動作	実行例： `RX> set wan nat 0 ↵`　　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0

取得

全機種

機能	NAT 使用設定の設定値を取得します。
コマンド	`get wan nat`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get wan nat ↵`　　←コマンドを入力 `0`　　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-6 モバイル通信端末の設定をする

3-6-1　WakeOn着信の使用

設定

全機種

機能	WakeOn 着信を使用するかどうかを設定します。
コマンド	set mobile wakeon use
パラメータ	第 1 パラメータ：　使用設定（0：使用しない、1：使用する）
動作	実行例： RX> set mobile wakeon use 0 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	0

取得

全機種

機能	WakeOn 着信使用設定の設定値を取得します。
コマンド	get mobile wakeon use
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mobile wakeon use ↵　　←コマンドを入力 0　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-6-2　WakeOn着信の認証キー

設定

全機種

機能	WakeOn 着信の認証キーを設定します。
コマンド	set mobile wakeon key
パラメータ	第 1 パラメータ：　認証キー（半角 16 文字までの文字列）
動作	実行例： RX> set mobile wakeon key KEYWAKEON ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	なし

取得

全機種

機能	WakeOn 着信の認証キーを取得します。
コマンド	get mobile wakeon key
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mobile wakeon key ↵　　←コマンドを入力 KEYWAKEON　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-6-3 WakeOn着番認証の使用

設定

全機種

機能	WakeOn の着番認証を使用するかどうかを設定します。
コマンド	`set mobile wakeon tel`
パラメータ	第 1 パラメータ： 使用設定（0：使用しない、1：使用する）
動作	実行例： `RX> set mobile wakeon tel 0 ↵` ←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0

取得

全機種

機能	WakeOn の着番認証使用設定の設定値を取得します。
コマンド	`get mobile wakeon tel`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get mobile wakeon tel ↵` ←コマンドを入力 `0` ←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-6-4 WakeOnの着番リスト

設定

全機種

機能	WakeOn の着番リストを設定します。
コマンド	`set mobile wakeon tel_list`
パラメータ	第 1 パラメータ： 管理番号（1〜16） 第 2 パラメータ： 電話番号 第 3 パラメータ： メモ

動作	使用しない場合の実行例：
	`RX> set mobile wakeon tel_list 1 NOTUSE ↵` ←コマンドを入力
	`RX>`
	着番リストの設定例：
	`RX> set mobile wakeon tel_list 1 03-1234-5678 memo ↵`
	`RX>` ↑コマンドを入力

初期値	なし

取得

全機種

機能	WakeOn の着番リストの設定値を取得します。
コマンド	`get mobile wakeon tel_list`
パラメータ	第 1 パラメータ： 管理番号（1〜16）
動作	実行例： `RX> get mobile wakeon tel_list 1 ↵` ←コマンドを入力 `03-1234-5678 memo` ←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-6-5　モバイル通信端末の初期化ATコマンド

設定

全機種

機能	モバイル通信端末の初期化 AT コマンドを設定します。
コマンド	set mobile init_at_command
パラメータ	第 1 パラメータ：　AT コマンド
動作	実行例： RX> set mobile init_at_command ATZ ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	なし

取得

全機種

機能	モバイル通信端末の初期化 AT コマンドの設定値を取得します。
コマンド	get mobile init_at_command
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mobile init_at_command ↵　　←コマンドを入力 ATZ　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-6-6　モバイル通信端末の使用

設定

全機種

機能	モバイル通信端末を使用するかどうかを設定します。
コマンド	set mobile use
パラメータ	第 1 パラメータ：　使用設定（0：モバイル通信端末無効、1：モバイル通信端末有効）
動作	実行例： RX> set mobile use 1 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	1

取得

全機種

機能	モバイル通信端末使用設定の設定値を取得します。
コマンド	get mobile use
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mobile use ↵　　←コマンドを入力 1　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-6-7　PIN1の解除

設定

全機種

機能	PIN1 の解除処理を実行するかどうかを設定します。
コマンド	set mobile pin use
パラメータ	第 1 パラメータ：　使用設定（0：PIN1 解除処理を行わない、1：PIN1 解除処理を行う）
動作	実行例： RX> set mobile pin use 1 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	0

取得

全機種

機能	PIN1 の解除処理実行設定の設定値を取得します。
コマンド	get mobile pin use
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mobile pin use ↵　　←コマンドを入力 1　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-6-8　PIN1コード

設定

全機種

機能	PIN1 コードを設定します。
コマンド	set mobile pin code
パラメータ	第 1 パラメータ：　PIN1 コード
動作	実行例： RX> set mobile pin code 12345678 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	なし
備考	8 バイトまで設定できます。

取得

全機種

機能	PIN1 コードを取得します。
コマンド	get mobile pin code
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mobile pin code ↵　　←コマンドを入力 12345678　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-6-9　モバイル通信端末のAPN

設定

RX110 RX130 RX210

機能	APN を設定します。
コマンド	`set mobile apn list`
パラメータ	第 1 パラメータ：　CID（1～10） 第 2 パラメータ：　APN 第 3 パラメータ：　プロトコル（0：IP、1：PPP） 第 4 パラメータ：　メモ（省略可能）

動作	使用しない場合の実行例：
	`RX> set mobile apn list 1 NOTUSE ↵` ←コマンドを入力
	`RX>`
	APN の設定例：
	`RX> set mobile apn list 1 mopera.net 1 moperaU 従量制 ↵`
	`RX>` ↑コマンドを入力

初期値	Rooster RX 取扱説明書の APN 設定のページを参照してください。
備考	NOTUSE の場合、第 3 パラメータ以降を省略してください。

RX160

機能	APN を設定します。
コマンド	`set mobile apn list`
パラメータ	第 1 パラメータ：　CID（1） 第 2 パラメータ：　APN 第 3 パラメータ：　メモ（省略可能）

動作	使用しない場合の実行例：
	`RX> set mobile apn list 1 NOTUSE ↵` ←コマンドを入力
	`RX>`
	APN の設定例：
	`RX> set mobile apn list 1 au.au-net.ne.jp LTE NET for DATA ↵`
	`RX>` ↑コマンドを入力

初期値	Rooster RX 取扱説明書の APN 設定のページを参照してください。
備考	NOTUSE の場合、第 3 パラメータ以降を省略してください。

RX180

機能	APN を設定します。
コマンド	`set mobile apn list`
パラメータ	第 1 パラメータ：　CID（1〜10） 第 2 パラメータ：　APN 第 3 パラメータ：　プロトコル（0：IP） 第 4 パラメータ：　メモ（省略可能）
動作	使用しない場合の実行例： RX> set mobile apn list 1 NOTUSE ↵　　←コマンドを入力 RX> APN の設定例： RX> set mobile apn list 1 softbank 1 SoftBank ↵ RX>　　↑コマンドを入力
初期値	Rooster RX 取扱説明書の APN 設定のページを参照してください。
備考	NOTUSE の場合、第 3 パラメータ以降を省略してください。

取得

RX110 RX130 RX180 RX210

機能	APN の設定値を取得します。
コマンド	`get mobile apn list`
パラメータ	第 1 パラメータ：　CID（1〜10）
動作	実行例： RX> get mobile apn list 1 ↵　　←コマンドを入力 mopera.net 1 moperaU 従量制　　←現在の設定内容が出力される RX>

RX160

機能	APN の設定値を取得します。
コマンド	`get mobile apn list`
パラメータ	第 1 パラメータ：　CID（1）
動作	実行例： RX> get mobile apn list 1 ↵　　←コマンドを入力 au.au-net.ne.jp LTE NET for DATA　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-6-10 ダイヤルアップの使用

設定

全機種

機能	ダイヤルアップを使用するかどうかを設定します。
コマンド	set mobile dialup use
パラメータ	第 1 パラメータ：　使用設定（0：使用しない、1：使用する）
動作	実行例： RX> set mobile dialup use 1 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	0

取得

全機種

機能	ダイヤルアップ使用設定の設定値を取得します。
コマンド	get mobile dialup use
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mobile dialup use ↵　　←コマンドを入力 1　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-6-11 ダイヤルアップの自動接続

設定

全機種

機能	ダイヤルアップで自動接続するかどうかを設定します。
コマンド	set mobile dialup auto
パラメータ	第 1 パラメータ：　自動接続設定（0：行わない、1：行う）
動作	実行例： RX> set mobile dialup auto 1 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	1

取得

全機種

機能	ダイヤルアップ自動接続設定の設定値を取得します。
コマンド	get mobile dialup auto
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mobile dialup auto ↵　　←コマンドを入力 1　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-6-12 ダイヤルアップセッションキープ

設定

全機種

機能	ダイヤルアップでセッションをキープするかどうかを設定します。
コマンド	`set mobile dialup keep`
パラメータ	第１パラメータ：　セッションキープ設定（0：行わない、1：行う）
動作	実行例： `RX> set mobile dialup keep 1 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0
備考	ダイヤルアップの自動接続設定を行う場合にのみ有効となります。

取得

全機種

機能	ダイヤルアップのセッションキープ設定の設定値を取得します。
コマンド	`get mobile dialup keep`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get mobile dialup keep ↵`　←コマンドを入力 `1`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-6-13 LCP Echo Requestによる接続監視

設定

全機種

機能	LCP Echo Request による接続監視機能を使用するかどうかを設定します。
コマンド	`set mobile dialup lcpecho use`
パラメータ	第１パラメータ：　使用設定（0：使用しない、1：使用する）
動作	実行例： `RX> set mobile dialup lcpecho use 1 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0

取得

全機種

機能	LCP Echo Request による接続監視機能使用設定の設定値を取得します。
コマンド	`get mobile dialup lcpecho use`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get mobile dialup lcpecho use ↵`　←コマンドを入力 `1`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-6-14 LCP Echo Requestの送信間隔

設定

全機種

機能	LCP Echo Request の送信間隔を設定します。
コマンド	`set mobile dialup lcpecho interval`
パラメータ	第 1 パラメータ：　LCP Echo Request の送信間隔設定（単位：秒）
動作	実行例： RX> set mobile dialup lcpecho interval 10 ↵　←コマンドを入力 RX>
初期値	10

取得

全機種

機能	LCP Echo Request の送信間隔の設定値を取得します。
コマンド	`get mobile dialup lcpecho interval`
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mobile dialup lcpecho interval ↵　←コマンドを入力 10　←現在の設定内容が出力される RX>

3-6-15 LCP Echo Requestの連続無応答回数

設定

全機種

機能	LCP Echo Request の連続無応答回数を設定します。
コマンド	`set mobile dialup lcpecho count`
パラメータ	第 1 パラメータ：　LCP Echo Request の連続無応答回数（単位：回数）
動作	実行例： RX> set mobile dialup lcpecho count 5 ↵　←コマンドを入力 RX>
初期値	5

取得

全機種

機能	LCP Echo Request の連続無応答回数の設定値を取得します。
コマンド	`get mobile dialup lcpecho count`
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mobile dialup lcpecho count ↵　←コマンドを入力 5　←現在の設定内容が出力される RX>

3-6-16 ダイヤルアップの無通信監視

設定

全機種

機能	ダイヤルアップの無通信を監視するかどうかを設定します。
コマンド	set mobile dialup watch use
パラメータ	第 1 パラメータ：　無通信監視設定（0：行わない、1：行う）
動作	実行例： RX> set mobile dialup watch use 1 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	1

取得

全機種

機能	ダイヤルアップの無通信監視設定の設定値を取得します。
コマンド	get mobile dialup watch use
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mobile dialup watch use ↵　　←コマンドを入力 1　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-6-17 ダイヤルアップの無通信監視時間

設定

全機種

機能	ダイヤルアップの無通信監視時間を設定します。
コマンド	set mobile dialup watch time
パラメータ	第 1 パラメータ：　無通信監視時間（単位：秒）
動作	実行例： RX> set mobile dialup watch time 60 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	600

取得

全機種

機能	ダイヤルアップの無通信監視設定の設定値を取得します。
コマンド	get mobile dialup watch time
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mobile dialup watch time ↵　　←コマンドを入力 60　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-6-18 ダイヤルアップでのNAT使用

設定

全機種

機能	ダイヤルアップで NAT を使用するかどうかを設定します。
コマンド	`set mobile dialup nat`
パラメータ	第 1 パラメータ：　NAT 使用設定（0：NAT 無効、1：NAT 有効）
動作	実行例： RX> set mobile dialup nat 1 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	1

取得

全機種

機能	ダイヤルアップの NAT 設定値を取得します。
コマンド	`get mobile dialup nat`
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mobile dialup nat ↵　　←コマンドを入力 1　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-6-19 ダイヤルアップの接続先

設定

全機種

機能	ダイヤルアップの接続先を設定します。
コマンド	set mobile dialup point
パラメータ	第 1 パラメータ：　電話番号 第 2 パラメータ：　アカウント名(省略時は#) 第 3 パラメータ：　パスワード(省略時は#) 第 4 パラメータ：　接続方式（0：ダイヤルアップ） 第 5 パラメータ：　メモ
動作	使用しない場合の実行例： RX> set mobile dialup point NOTUSE ↵　←コマンドを入力 RX> ダイヤルアップ接続先の設定例： RX> set mobile dialup point *99***1# test password 0 memo ↵ RX>　↑コマンドを入力
初期値	なし
備考	NOTUSE の場合、第 2 パラメータ以降を省略してください。

※対象ファームウェアバージョン：Version 1.3.0 以前
　Version1.4.0 より『3-6-20　ダイヤルアップの接続先リスト』コマンドに変更となりました。

取得

全機種

機能	ダイヤルアップ接続先の設定値を取得します。
コマンド	get mobile dialup point
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mobile dialup point ↵　←コマンドを入力 *99***1# test password 0 memo　←現在の設定内容が出力される RX>

※対象ファームウェアバージョン：Version 1.3.0 以前
　Version1.4.0 より『3-6-20　ダイヤルアップの接続先リスト』コマンドに変更となりました。

3-6-20 ダイヤルアップの接続先リスト

設定

全機種

機能	ダイヤルアップの接続先リストを設定します。
コマンド	`set mobile dialup list`
パラメータ	第 1 パラメータ： 設定番号（1～8） 第 2 パラメータ： 電話番号 第 3 パラメータ： アカウント名(省略時は#) 第 4 パラメータ： パスワード(省略時は#) 第 5 パラメータ： 接続方式（0：ダイヤルアップ） 第 6 パラメータ： 宛先 IP アドレス（xxx.xxx.xxx.xxx）(省略時は#) 第 7 パラメータ： 宛先ネットマスク（xxx.xxx.xxx.xxx）(省略時は#) 第 8 パラメータ： 本体側 IP アドレス（xxx.xxx.xxx.xxx）(省略時は#) 第 9 パラメータ： メモ
動作	使用しない場合の実行例： `RX> set mobile dialup list 1 NOTUSE ↵` ←コマンドを入力 `RX>` ダイヤルアップ接続先リストの設定例： `RX> set mobile dialup list 1 *99***1# test password 0 192.168.2.0 255.255.255.0 192.168.0.1 memo ↵` ←コマンドを入力 `RX>`
初期値	なし
備考	NOTUSE の場合、第 3 パラメータ以降を省略してください。
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降	

取得

全機種

機能	ダイヤルアップ接続先の設定値を取得します。
コマンド	`get mobile dialup list`
パラメータ	第 1 パラメータ： 設定番号（1～8）

動作	実行例：
	`RX> get mobile dialup list 1 ↵` ←コマンドを入力
	`*99***1# test password 0 192.168.2.0 255.255.255.0 192.168.0.1 memo`
	↑現在の設定内容が出力される
	`RX>`

※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降	

3-6-21 ダイヤルアップモード

設定

RX110 RX130

機能	ダイヤルアップモードを設定します。
コマンド	`set mobile dialup mode`
パラメータ	第 1 パラメータ：　モード（0：通常、2：ビジネス mopera）
動作	実行例： `RX> set mobile dialup mode 0 ↵` ←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0

RX160 RX180 RX210

機能	ダイヤルアップモードを設定します。
コマンド	`set mobile dialup mode`
パラメータ	第 1 パラメータ：　モード（0：通常）
動作	実行例： `RX> set mobile dialup mode 0 ↵` ←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0

取得

全機種

機能	ダイヤルアップモードの設定値を取得します。
コマンド	`get mobile dialup mode`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get mobile dialup mode ↵` ←コマンドを入力 `0` ←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-6-22 ダイヤルアップ本体側IPアドレスのモード

設定

全機種

機能	ダイヤルアップ本体側 IP アドレスのモードを設定します。
コマンド	`set mobile dialup wan_ip_mode`
パラメータ	第 1 パラメータ：　モード（0：自動取得、1：IP 固定）
動作	実行例： `RX> set mobile dialup wan_ip_mode 1 ↵`　　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0

取得

全機種

機能	ダイヤルアップ本体側 IP アドレスのモードの設定値を取得します。
コマンド	`get mobile dialup wan_ip_mode`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get mobile dialup wan_ip_mode ↵`　　←コマンドを入力 `1`　　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-6-23 ダイヤルアップ本体側IPアドレス

設定

全機種

機能	ダイヤルアップ本体側の IP アドレスを設定します。
コマンド	set mobile dialup wan_ip
パラメータ	第 1 パラメータ：　本体側 IP アドレス（xxx.xxx.xxx.xxx）
動作	実行例： RX> set mobile dialup wan_ip 192.168.0.1 ↵ ←コマンドを入力 RX>
初期値	なし

取得

全機種

機能	ダイヤルアップ本体側の IP アドレスを取得します。
コマンド	get mobile dialup wan_ip
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mobile dialup wan_ip ↵ ←コマンドを入力 192.168.0.1 ←現在の設定内容が出力される RX>

3-6-24 ダイヤルアップ認証プロトコル

設定

全機種

機能	ダイヤルアップ認証プロトコルを設定します。
コマンド	set mobile dialup auth_protocol
パラメータ	第 1 パラメータ：　認証設定（0：CHAP、1：PAP、2：相手に合わせる）
動作	実行例： RX> set mobile dialup auth_protocol 2 ↵ ←コマンドを入力 RX>
初期値	2

取得

全機種

機能	ダイヤルアップ認証プロトコルの設定値を取得します。
コマンド	get mobile dialup auth_protocol
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mobile dialup auth_protocol ↵ ←コマンドを入力 2 ←現在の設定内容が出力される RX>

3-6-25 RAS着信の使用

設定

RX110 RX130 RX160 RX180

機能	RAS 着信を使用するかどうかを設定します。
コマンド	`set mobile ras use`
パラメータ	第 1 パラメータ：　使用設定（0：RAS 着信を使用しない、1：RAS 着信を使用する）
動作	実行例： `RX> set mobile ras use 1 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0
※RX180 はファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

取得

RX110 RX130 RX160 RX180

機能	RAS 着信使用設定の設定値を取得します。
コマンド	`get mobile ras use`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get mobile ras use ↵`　←コマンドを入力 `1`　←現在の設定内容が出力される `RX>`
※RX180 はファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

3-6-26 RAS着信モード

設定

RX110 RX130

機能	RAS 着信モードを設定します。
コマンド	`set mobile ras mode`
パラメータ	第 1 パラメータ：　RAS 着信モード（2：ビジネス mopera）
動作	実行例： `RX> set mobile ras mode 2 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	2

RX160 RX180

機能	RAS 着信モードを設定します。
コマンド	`set mobile ras mode`
パラメータ	第 1 パラメータ：　RAS 着信モード（2：IP 着信）
動作	実行例： `RX> set mobile ras mode 2 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	2
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

取得

RX110 RX130 RX160 RX180

機能	RAS 着信モードの設定値を取得します。
コマンド	`get mobile ras mode`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get mobile ras mode ↵`　←コマンドを入力 `2`　←現在の設定内容が出力される `RX>`
※RX180 はファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

3-6-27 RAS着信本体側IPアドレスのモード

設定

RX110 RX130 RX160 RX180

機能	RAS 着信本体側 IP アドレスのモードを設定します。
コマンド	set mobile ras wan_ip_mode
パラメータ	第 1 パラメータ：　モード（0：自動取得、1：IP 固定）
動作	実行例： RX> set mobile ras wan_ip_mode 1 ↵　←コマンドを入力 RX>
初期値	0
※RX180 はファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

取得

RX110 RX130 RX160 RX180

機能	RAS 着信本体側 IP アドレスのモードの設定値を取得します。
コマンド	get mobile ras wan_ip_mode
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mobile ras wan_ip_mode ↵　←コマンドを入力 1　←現在の設定内容が出力される RX>
※RX180 はファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

3-6-28 RAS着信本体側IPアドレス

設定

RX110 RX130 RX160 RX180

機能	RAS 着信本体側の IP アドレスを設定します。
コマンド	set mobile ras wan_ip
パラメータ	第 1 パラメータ：　本体側 IP アドレス（xxx.xxx.xxx.xxx）
動作	実行例： RX> set mobile ras wan_ip 192.168.0.1 ↵　←コマンドを入力 RX>
初期値	なし
※RX180 はファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

取得

RX110 RX130 RX160 RX180

機能	RAS 着信本体側の IP アドレスを取得します。
コマンド	get mobile ras wan_ip
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mobile ras wan_ip ↵　←コマンドを入力 192.168.0.1　←現在の設定内容が出力される RX>
※RX180 はファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

3-6-29 RAS着信ID

設定

RX110 RX130 RX160 RX180

機能	RAS 着信の ID を設定します。
コマンド	`set mobile ras id`
パラメータ	第 1 パラメータ：　ID
動作	実行例： `RX> set mobile ras id sample_id ↵` ←コマンドを入力 `RX>`
初期値	なし
※RX180 はファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

取得

RX110 RX130 RX160 RX180

機能	RAS 着信 ID を取得します。
コマンド	`get mobile ras id`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get mobile ras id ↵` ←コマンドを入力 `sample_id` ←現在の設定内容が出力される `RX>`
※RX180 はファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

3-6-30 RAS着信パスワード

設定

RX110 RX130 RX160 RX180

機能	RAS 着信のパスワードを設定します。
コマンド	`set mobile ras password`
パラメータ	第 1 パラメータ：　パスワード
動作	実行例： `RX> set mobile ras password sample ↵` ←コマンドを入力 `RX>`
初期値	なし
※RX180 はファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

取得

RX110 RX130 RX160 RX180

機能	RAS 着信のパスワードを取得します。
コマンド	`get mobile ras password`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get mobile ras password ↵` ←コマンドを入力 `sample` ←現在の設定内容が出力される `RX>`
※RX180 はファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

3-6-31 RAS着信での無通信監視

設定

RX110 RX130 RX160 RX180

機能	RAS 着信の無通信を監視するかどうかを設定します。
コマンド	`set mobile ras watch use`
パラメータ	第 1 パラメータ：　無通信監視設定（0：行わない、1：行う）
動作	実行例： `RX> set mobile ras watch use 1 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	1
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

取得

RX110 RX130 RX160 RX180

機能	RAS 着信の無通信監視設定の設定値を取得します。
コマンド	`get mobile ras watch use`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get mobile ras watch use ↵`　←コマンドを入力 `1`　←現在の設定内容が出力される `RX>`
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

3-6-32 RAS着信での無通信監視時間

設定

RX110 RX130 RX160 RX180

機能	RAS 着信の無通信監視時間を設定します。
コマンド	`set mobile ras watch time`
パラメータ	第 1 パラメータ：　無通信監視時間（単位：秒）
動作	実行例： `RX> set mobile ras watch time 60 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	600
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

取得

RX110 RX130 RX160 RX180

機能	RAS 着信の無通信監視設定の設定値を取得します。
コマンド	`get mobile ras watch time`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get mobile ras watch time ↵`　←コマンドを入力 `60`　←現在の設定内容が出力される `RX>`
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

3-6-33 RAS着信でのNAT使用

設定

RX110 RX130 RX160 RX180

機能	RAS 着信で NAT を使用するかどうかを設定します。
コマンド	`set mobile ras nat`
パラメータ	第 1 パラメータ： NAT 使用設定（0：NAT 無効、1：NAT 有効）
動作	実行例： RX> set mobile ras nat 1 ↵ ←コマンドを入力 RX>
初期値	1
※RX180 はファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

取得

RX110 RX130 RX160 RX180

機能	RAS 着信の NAT 設定値を取得します。
コマンド	`get mobile ras nat`
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mobile ras nat ↵ ←コマンドを入力 1 ←現在の設定内容が出力される RX>
※RX180 はファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

3-6-34 通信モジュールの自動リセット

設定

全機種

機能	通信モジュールを自動リセットするかどうかを設定します。
コマンド	set mobile autoreboot use
パラメータ	第１パラメータ：　使用設定（0：使用しない、1：使用する）
動作	実行例： RX> set mobile autoreboot use 0 ↵　←コマンドを入力 RX>
初期値	1
備考	通信モジュールを定期的にリセットすることで、意図しない通信異常を防ぐ事ができますので、本機能を使用することを推奨します。

取得

全機種

機能	通信モジュール自動リセット使用設定の設定値を取得します。
コマンド	get mobile autoreboot use
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mobile autoreboot use ↵　←コマンドを入力 0　←現在の設定内容が出力される RX>

3-6-35 通信モジュール自動リセットの時間間隔

設定

全機種

機能	通信モジュール自動リセットの時間間隔を設定します。
コマンド	set mobile autoreboot interval
パラメータ	第１パラメータ：　時間間隔（1～7　単位：日）
動作	実行例： RX> set mobile autoreboot interval 1 ↵　←コマンドを入力 RX>
初期値	1

取得

全機種

機能	通信モジュール自動リセットの時間間隔の設定値を取得します。
コマンド	get mobile autoreboot interval
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mobile autoreboot interval ↵　←コマンドを入力 1　←現在の設定内容が出力される RX>

3-6-36 緊急速報受信

設定

RX130

機能	緊急速報を受信するかどうかを設定します。
コマンド	set mobile warnmsg use
パラメータ	第 1 パラメータ：　使用設定（0：使用しない、1：使用する）
動作	実行例： RX> set mobile warnmsg use 0 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	0
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

取得

RX130

機能	緊急速報受信使用設定の設定値を取得します。
コマンド	get mobile warnmsg use
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mobile warnmsg use ↵　　←コマンドを入力 0　　←現在の設定内容が出力される RX>
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

3-6-37 緊急速報ブロードキャスト転送

設定

RX130

機能	緊急速報をブロードキャスト転送するかどうかを設定します。
コマンド	set mobile warnmsg broadcast use
パラメータ	第 1 パラメータ：　使用設定（0：使用しない、1：使用する）
動作	実行例： RX> set mobile warnmsg broadcast use 0 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	0
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

取得

RX130

機能	緊急速報ブロードキャスト転送使用設定の設定値を取得します。
コマンド	get mobile warnmsg broadcast use
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mobile warnmsg broadcast use ↵　　←コマンドを入力 0　　←現在の設定内容が出力される RX>
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

3-6-38 緊急速報ブロードキャストメッセージMAGIC WORD設定

設定

RX130

機能	緊急速報ブロードキャストメッセージの MAGIC WORD を設定します。
コマンド	`set mobile warnmsg broadcast magic`
パラメータ	第 1 パラメータ：　MAGIC WORD（最大 16 バイト）
動作	実行例： `RX> set mobile warnmsg broadcast magic rooster ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	なし
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

取得

RX130

機能	緊急速報ブロードキャストメッセージの MAGIC WORD を取得します。
コマンド	`get mobile warnmsg broadcast magic`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get mobile warnmsg broadcast magic ↵`　←コマンドを入力 `rooster`　←現在の設定内容が出力される `RX>`
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

3-6-39 使用ネットワークサービス設定

設定

RX210

機能	使用するネットワークサービスを設定します。
コマンド	set mobile network mode
パラメータ	第 1 パラメータ：　モード番号（0：自動（LTE,3G 自動切り替え）、1：3G のみ、2：LTE のみ）
動作	実行例： RX> set mobile network mode 0↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	0

取得

RX210

機能	ネットワークサービスの設定値を取得します。
コマンド	get mobile network mode
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get mobile network mode↵　　←コマンドを入力 0　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-7 サービスの設定をする

3-7-1　アドレス解決の使用

設定

全機種

機能	アドレスを解決するかどうかを設定します。
コマンド	set service address use
パラメータ	第 1 パラメータ：　アドレス解決使用設定（0：使用しない、1：使用する）
動作	実行例： RX> set service address use 1 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	0

取得

全機種

機能	アドレス解決使用設定の設定値を取得します。
コマンド	get service address use
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get service address use ↵　　←コマンドを入力 1　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-7-2　アドレス解決の更新時間

設定

全機種

機能	アドレス解決の更新時間を設定します。
コマンド	set service address interval
パラメータ	第 1 パラメータ：　更新間隔（単位：分） ▶0 の場合は自動更新されます。
動作	実行例： RX> set service address interval 0 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	0

取得

全機種

機能	アドレス解決の更新時間の設定値を取得します。
コマンド	get service address interval
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get service address interval ↵　　←コマンドを入力 0　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-7-3　アドレス解決の種別

設定

全機種

機能	アドレス解決の種別を設定します。
コマンド	set service address type
パラメータ	第 1 パラメータ：　アドレス解決種別（0：メール、1：ダイナミック DNS）
動作	実行例： RX> set service address type 1 ↵　←コマンドを入力 RX>
初期値	0

取得

全機種

機能	アドレス解決の種別の設定値を取得します。
コマンド	get service address type
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get service address type ↵　←コマンドを入力 1　←現在の設定内容が出力される RX>

3-7-4　アドレス解決の送信先メールアドレス

設定

全機種

機能	アドレス解決の送信先メールアドレスを設定します。
コマンド	set service address send_to
パラメータ	第 1 パラメータ：　送信先メールアドレス
動作	実行例： RX> set service address send_to sample@abcd.ne.jp ↵ RX>　↑コマンドを入力
初期値	なし

取得

全機種

機能	アドレス解決の送信先メールアドレスを取得します。
コマンド	get service address send_to
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get service address send_to ↵　←コマンドを入力 sample@abcd.ne.jp　←現在の設定内容が出力される RX>

3-7-5 アドレス解決の送信元メールアドレス

設定

全機種

機能	アドレス解決の送信元メールアドレスを設定します。
コマンド	set service address from
パラメータ	第１パラメータ： 送信元メールアドレス
動作	実行例： RX> set service address from sample@abcd.ne.jp ↵ RX>　　↑コマンドを入力
初期値	なし

取得

全機種

機能	アドレス解決の送信元メールアドレスを取得します。
コマンド	get service address from
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get service address from ↵　　←コマンドを入力 sample@abcd.ne.jp　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-7-6 アドレス解決のメール送信種別

設定

全機種

機能	アドレス解決のメール送信種別を設定します。
コマンド	set service address mail_type
パラメータ	第１パラメータ： メール種別（0：標準メッセージ、1：指定メッセージ）
動作	実行例： RX> set service address mail_type 0 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	0

取得

全機種

機能	アドレス解決のメール送信種別の設定値を取得します。
コマンド	get service address mail_type
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get service address mail_type ↵　　←コマンドを入力 0　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-7-7　アドレス解決の指定メッセージ

設定

全機種

機能	アドレス解決の指定メッセージを設定します。
コマンド	set service address message
パラメータ	第 1 パラメータ：　指定メッセージ内容（IP アドレスは「%s」と表記）
動作	実行例： RX> set service address message http://%s/ ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	なし

取得

全機種

機能	アドレス解決の指定メッセージを取得します。
コマンド	get service address message
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get service address message ↵　　←コマンドを入力 http://%s/　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-7-8　アドレス解決のダイナミックDNSの種類

設定

全機種

機能	アドレス解決のダイナミック DNS の種類を設定します。
コマンド	set service address ddns_type
パラメータ	第 1 パラメータ：　種類（2：suncomm.DDNS）
動作	実行例： RX> set service address ddns_type 2 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	2

取得

全機種

機能	アドレス解決のダイナミック DNS の種類を取得します。
コマンド	get service address ddns_type
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get service address ddns_type ↵　　←コマンドを入力 2　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-7-9　アドレス解決のダイナミックDNSサーバ名

設定

全機種

機能	アドレス解決のダイナミック DNS のサーバ名を設定します。
コマンド	set service address server
パラメータ	第 1 パラメータ：　ダイナミック DNS サーバ名
動作	実行例： RX> set service address server www.suncomm.jp ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	なし

取得

全機種

機能	アドレス解決のダイナミック DNS のサーバ名を取得します。
コマンド	get service address server
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get service address server ↵　　←コマンドを入力 www.suncomm.jp　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-7-10 アドレス解決のダイナミックDNSホスト名

設定

全機種

機能	アドレス解決のダイナミック DNS のホスト名を設定します。
コマンド	set service address host
パラメータ	第 1 パラメータ：　ダイナミック DNS ホスト名
動作	実行例： RX> set service address host abcdef ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	なし

取得

全機種

機能	アドレス解決のダイナミック DNS のホスト名を取得します。
コマンド	get service address host
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get service address host ↵　　←コマンドを入力 abcdef　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-7-11 アドレス解決のダイナミックDNSアカウント

設定

全機種

機能	アドレス解決のダイナミック DNS のアカウントを設定します。
コマンド	set service address account
パラメータ	第 1 パラメータ：　ダイナミック DNS アカウント
動作	実行例： RX> set service address account sample ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	なし

取得

全機種

機能	アドレス解決のダイナミック DNS のアカウントを取得します。
コマンド	get service address account
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get service address account ↵　　←コマンドを入力 sample　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-7-12 アドレス解決のダイナミックDNSパスワード

設定

全機種

機能	アドレス解決のダイナミック DNS のパスワードを設定します。
コマンド	set service address password
パラメータ	第 1 パラメータ：　ダイナミック DNS パスワード
動作	実行例： RX> set service address password abc01234DE ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	なし

取得

全機種

機能	アドレス解決のダイナミック DNS のパスワードを取得します。
コマンド	get service address password
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get service address password ↵　　←コマンドを入力 abc01234DE　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-7-13 DNSリレーの使用

設定

全機種

機能	DNS リレーを使用するかどうかを設定します。
コマンド	`set service dns use`
パラメータ	第 1 パラメータ：　使用設定（0：使用しない、1：使用する）
動作	実行例： `RX> set service dns use 1 ↵` ←コマンドを入力 `RX>`
初期値	1

取得

機能	DNS リレー使用設定の設定値を取得します。
コマンド	`get service dns use`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get service dns use ↵` ←コマンドを入力 `1` ←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-7-14 DHCPサービス機能の使用

設定

全機種

機能	DHCP サービス機能を使用するかどうかを設定します。
コマンド	`set service dhcp use`
パラメータ	第 1 パラメータ：　使用設定（0：使用しない、1：使用する）
動作	実行例： `RX> set service dhcp use 1 ↵` ←コマンドを入力 `RX>`
初期値	1

取得

全機種

機能	DHCP サービス機能使用設定の設定値を取得します。
コマンド	`get service dhcp use`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get service dhcp use ↵` ←コマンドを入力 `1` ←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-7-15 DHCPのリース開始IPアドレス

設定

全機種

機能	DHCP のリース開始 IP アドレスを設定します。
コマンド	set service dhcp start_ip
パラメータ	第 1 パラメータ： リース開始 IP アドレス（xxx.xxx.xxx.xxx）
動作	実行例： RX> set service dhcp start_ip 192.168.62.50 ↵ ←コマンドを入力 RX>
初期値	192.168.62.50

取得

全機種

機能	DHCP のリース開始 IP アドレスを取得します。
コマンド	get service dhcp start_ip
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get service dhcp start_ip ↵ ←コマンドを入力 192.168.62.50 ←現在の設定内容が出力される RX>

3-7-16 DHCPのリースアドレスの個数

設定

全機種

機能	DHCP のリースアドレスの個数を設定します。
コマンド	set service dhcp ip_count
パラメータ	第 1 パラメータ： 個数
動作	実行例： RX> set service dhcp ip_count 50 ↵ ←コマンドを入力 RX>
初期値	50

取得

全機種

機能	DHCP のリースアドレスの個数を取得します。
コマンド	get service dhcp ip_count
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get service dhcp ip_count ↵ ←コマンドを入力 50 ←現在の設定内容が出力される RX>

3-7-17 DHCPのリース時間

設定

全機種

機能	DHCP のリース時間を設定します。
コマンド	set service dhcp lease_time
パラメータ	第 1 パラメータ：　リース時間（単位：分）
動作	実行例： RX> set service dhcp lease_time 720 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	720

取得

全機種

機能	DHCP のリース時間を取得します。
コマンド	get service dhcp lease_time
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get service dhcp lease_time ↵　　←コマンドを入力 720　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-7-18 DHCPのプライマリDNSサーバ

設定

全機種

機能	DHCP のプライマリ DNS サーバの IP アドレスを設定します。
コマンド	set service dhcp dns1
パラメータ	第 1 パラメータ：　DHCP のプライマリ DNS サーバのアドレス（xxx.xxx.xxx.xxx）
動作	実行例： RX> set service dhcp dns1 192.168.1.101 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	なし

取得

全機種

機能	DHCP のプライマリ DNS サーバの IP アドレスを取得します。
コマンド	get service dhcp dns1
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get service dhcp dns1 ↵　　←コマンドを入力 192.168.1.101　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-7-19 DHCPのセカンダリDNSサーバ

設定

全機種

機能	DHCP のセカンダリ DNS サーバの IP アドレスを設定します。
コマンド	`set service dhcp dns2`
パラメータ	第 1 パラメータ：　DHCP のセカンダリ DNS サーバのアドレス（xxx.xxx.xxx.xxx）
動作	実行例： `RX> set service dhcp dns2 192.168.1.102 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	なし

取得

全機種

機能	DHCP のセカンダリ DNS サーバの IP アドレスを取得します。
コマンド	`get service dhcp dns2`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get service dhcp dns2 ↵`　←コマンドを入力 `192.168.1.102`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-7-20 TELNETサービスの使用

設定

全機種

機能	TELNET サービスを使用するかどうかを設定します。
コマンド	`set service telnet use`
パラメータ	第 1 パラメータ：　使用設定（0：使用しない、1：使用する）
動作	実行例： `RX> set service telnet use 1 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	1

取得

全機種

機能	TELNET サービス使用設定の設定値を取得します。
コマンド	`get service telnet use`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get service telnet use ↵`　←コマンドを入力 `1`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-7-21 TELNETのLANポートアクセス許可

設定

全機種

機能	TELNET サービスの LAN ポートアクセスを許可するかどうかを設定します。
コマンド	`set service telnet lan`
パラメータ	第 1 パラメータ：　許可設定（0：許可しない、1：許可する）
動作	実行例： `RX> set service telnet lan 1 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	1

取得

全機種

機能	TELNET サービスの LAN ポートアクセス許可設定の設定値を取得します。
コマンド	`get service telnet lan`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get service telnet lan ↵`　←コマンドを入力 `1`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-7-22 TELNETの外部アクセス許可

設定

全機種

機能	TELNET サービスの外部アクセスを許可するかどうかを設定します。
コマンド	`set service telnet remote`
パラメータ	第 1 パラメータ：　許可設定（0：許可しない、1：すべて許可する、2：INPUT フィルタリングに従う）
動作	実行例： `RX> set service telnet remote 1 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0

取得

全機種

機能	TELNET サービスの外部アクセス許可設定の設定値を取得します。
コマンド	`get service telnet remote`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get service telnet remote ↵`　←コマンドを入力 `1`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-7-23 TELNETサービスのポート番号

設定

全機種

機能	TELNET サービスで使用するポート番号を設定します。
コマンド	`set service telnet port`
パラメータ	第 1 パラメータ：　ポート番号
動作	実行例： `RX> set service telnet port 23 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	23

取得

全機種

機能	TELNET サービスで使用するポート番号を取得します。
コマンド	`get service telnet port`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get service telnet port ↵`　←コマンドを入力 `23`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-7-24 Webサービスの使用

設定

全機種

機能	Web サービスを使用するかどうかを設定します。
コマンド	`set service web use`
パラメータ	第 1 パラメータ：　使用設定（0：使用しない、1：使用する）
動作	実行例： `RX> set service web use 1 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	1

取得

全機種

機能	Web サービス使用設定の設定値を取得します。
コマンド	`get service web use`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get service web use ↵`　←コマンドを入力 `1`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-7-25 WebサービスのLANポートアクセス許可

設定

全機種

機能	Web サービスの LAN ポートアクセスを許可するかどうかを設定します。
コマンド	`set service web lan`
パラメータ	第 1 パラメータ：　許可設定（0：許可しない、1：許可する）
動作	実行例： `RX> set service web lan 1 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	1

取得

全機種

機能	Web サービスの LAN ポートアクセス許可設定の設定値を取得します。
コマンド	`get service web lan`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get service web lan ↵`　←コマンドを入力 `1`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-7-26 Webサービスの外部アクセス許可

設定

全機種

機能	Web サービスの外部アクセスを許可するかどうかを設定します。
コマンド	`set service web remote`
パラメータ	第 1 パラメータ：　許可設定（0：許可しない、1：すべて許可する、2：INPUT フィルタリングに従う）
動作	実行例： `RX> set service web remote 1 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0

取得

全機種

機能	Web サービスの外部アクセス許可設定の設定値を取得します。
コマンド	`get service web remote`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get service web remote ↵`　←コマンドを入力 `1`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-7-27 Webサービスのポート番号

設定

全機種

機能	Web サービスで使用するポート番号を設定します。
コマンド	`set service web port`
パラメータ	第 1 パラメータ：　ポート番号
動作	実行例： `RX> set service web port 80 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	80

取得

全機種

機能	Web サービスで使用するポート番号を取得します。
コマンド	`get service web port`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get service web port ↵`　←コマンドを入力 `80`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-7-28 SNMP機能の使用

設定

全機種

機能	SNMP 機能を使用するかどうかを設定します。
コマンド	`set service snmp use`
パラメータ	第 1 パラメータ：　使用設定（0：使用しない、1：使用する）
動作	実行例： `RX> set service snmp use 0 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0
備考	SNMP 機能は IPsec 側から使用できません。

取得

全機種

機能	SNMP 機能使用設定の設定値を取得します。
コマンド	`get service snmp use`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get service snmp use ↵`　←コマンドを入力 `0`　←現在の設定内容が出力される `RX>`
備考	SNMP 機能は IPsec 側から使用できません。

3-7-29 SNMPマネージャのIPアドレス

設定

全機種

機能	SNMP マネージャの IP アドレスを設定します。
コマンド	`set service snmp manager_ip`
パラメータ	第 1 パラメータ：　SNMP マネージャの IP アドレス（xxx.xxx.xxx.xxx）
動作	実行例： `RX> set service snmp manager_ip 192.168.2.1 ↵` ←コマンドを入力 `RX>`
初期値	なし
備考	SNMP 機能は IPsec 側から使用できません。

取得

全機種

機能	SNMP マネージャの IP アドレスを取得します。
コマンド	`get service snmp manager_ip`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get service snmp manager_ip ↵` ←コマンドを入力 `192.168.2.1` ←現在の設定内容が出力される `RX>`
備考	SNMP 機能は IPsec 側から使用できません。

3-7-30 SNMPコミュニティ名

設定

全機種

機能	SNMP コミュニティ名を設定します。
コマンド	`set service snmp community`
パラメータ	第 1 パラメータ：　SNMP コミュニティ名（半角 64 文字までの文字列）
動作	実行例： `RX> set service snmp community abcdefg ↵` ←コマンドを入力 `RX>`
初期値	なし
備考	SNMP 機能は IPsec 側から使用できません。

取得

全機種

機能	SNMP コミュニティ名を取得します。
コマンド	`get service snmp community`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get service snmp community ↵` ←コマンドを入力 `abcdefg` ←現在の設定内容が出力される `RX>`
備考	SNMP 機能は IPsec 側から使用できません。

3-7-31 SNMP SYS Location名

設定

全機種

機能	SNMP SYS Location 名を設定します。
コマンド	`set service snmp syslocation`
パラメータ	第 1 パラメータ：　SNMP SYS Location 名（半角 64 文字までの文字列）
動作	実行例： `RX> set service snmp syslocation xxxxxxxx ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	なし
備考	SNMP 機能は IPsec 側から使用できません。

取得

全機種

機能	SNMP SYS Location 名を取得します。
コマンド	`get service snmp syslocation`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get service snmp syslocation ↵`　←コマンドを入力 `xxxxxxxx`　←現在の設定内容が出力される `RX>`
備考	SNMP 機能は IPsec 側から使用できません。

3-7-32 SNMP TRAPの使用

設定

全機種

機能	SNMP TRAP を使用するかどうかを設定します。
コマンド	`set service snmp trap_use`
パラメータ	第 1 パラメータ：　使用設定（0：TRAP を使用しない、1：TRAP を使用する）
動作	実行例： `RX> set service snmp trap_use 1 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0
備考	SNMP 機能は IPsec 側から使用できません。

取得

全機種

機能	SNMP TRAP 使用設定の設定値を取得します。
コマンド	`get service snmp trap_use`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get service snmp trap_use ↵`　←コマンドを入力 `1`　←現在の設定内容が出力される `RX>`
備考	SNMP 機能は IPsec 側から使用できません。

3-7-33 SNMPのLANポートアクセス許可

設定

全機種

機能	SNMP の LAN ポートアクセスを許可するかどうかを設定します。
コマンド	`set service snmp lan`
パラメータ	第 1 パラメータ：　許可設定（0：許可しない、1：許可する）
動作	実行例： `RX> set service snmp lan 1 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	1

取得

全機種

機能	SNMP の LAN ポートアクセス許可設定の設定値を取得します。
コマンド	`get service snmp lan`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get service snmp lan ↵`　←コマンドを入力 `1`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-7-34 SNMPの外部アクセス許可

設定

全機種

機能	SNMP の外部アクセスを許可するかどうかを設定します。
コマンド	`set service snmp remote`
パラメータ	第 1 パラメータ：　許可設定（0：許可しない、1：許可する）
動作	実行例： `RX> set service snmp remote 1 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0
備考	SNMP 機能は IPsec 側から使用できません。

取得

全機種

機能	SNMP の外部アクセス許可設定の設定値を取得します。
コマンド	`get service snmp remote`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get service snmp remote ↵`　←コマンドを入力 `1`　←現在の設定内容が出力される `RX>`
備考	SNMP 機能は IPsec 側から使用できません。

3-7-35 WANハートビートの使用

設定

全機種

機能	WAN ハートビートを使用するかどうかを設定します。
コマンド	`set service hb use`
パラメータ	第 1 パラメータ：　使用設定（0：使用しない、1：使用する）
動作	実行例： RX> set service hb use 1 ↵　←コマンドを入力 RX>
初期値	0

取得

全機種

機能	WAN ハートビート使用設定の設定値を取得します。
コマンド	`get service hb use`
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get service hb use ↵　←コマンドを入力 1　←現在の設定内容が出力される RX>

3-7-36 WANハートビートの監視時間

設定

全機種

機能	WAN ハートビートの監視時間を設定します。
コマンド	`set service hb time`
パラメータ	第 1 パラメータ：　監視時間（単位：分）
動作	実行例： RX> set service hb time 10 ↵　←コマンドを入力 RX>
初期値	1

取得

全機種

機能	WAN ハートビートの監視時間を取得します。
コマンド	`get service hb time`
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get service hb time ↵　←コマンドを入力 10　←現在の設定内容が出力される RX>

3-7-37 WANハートビート無応答時の動作

設定

全機種

機能	WAN ハートビート無応答時の動作を設定します。
コマンド	set service hb mode
パラメータ	第 1 パラメータ：　無応答時動作（0：リセット、1：ログに記録）
動作	実行例： RX> set service hb mode 0 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	1

取得

全機種

機能	WAN ハートビート無応答時の動作設定の設定値を取得します。
コマンド	get service hb mode
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get service hb mode ↵　　←コマンドを入力 0　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-7-38 WANハートビートの監視先

設定

全機種

機能	WAN ハートビートの監視先を設定します。
コマンド	set service hb connect
パラメータ	第 1 パラメータ：　監視先（0：WAN のゲートウェイ、1：手動設定）
動作	実行例： RX> set service hb connect 0 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	0

取得

全機種

機能	WAN ハートビートの監視先設定の設定値を取得します。
コマンド	get service hb connect
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get service hb connect ↵　　←コマンドを入力 0　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-7-39 WANハートビートの監視先手動設定

設定

全機種

機能	WAN ハートビートの監視先 IP アドレス(or ドメイン名)を設定します。
コマンド	set service hb ip
パラメータ	第 1 パラメータ：　監視先 IP アドレス（xxx.xxx.xxx.xxx）or ドメイン名
動作	実行例： RX> set service hb ip 123.123.12.3 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	なし

取得

全機種

機能	WAN ハートビートの監視先 IP アドレス(or ドメイン名)を取得します。
コマンド	get service hb ip
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get service hb ip ↵　　←コマンドを入力 123.123.12.3　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-7-40 WANハートビート監視先IPアドレスのVPN接続先設定

設定

全機種

機能	WAN ハートビートの監視先 IP アドレスが VPN 接続先であるかどうかを設定します。
コマンド	set service hb vpn
パラメータ	第 1 パラメータ：　VPN 接続先設定（0：VPN 接続先ではない、1：VPN 接続先）
動作	実行例： RX> set service hb vpn 1 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	0

取得

全機種

機能	WAN ハートビートの監視先 IP アドレス VPN 接続先設定の設定値を取得します。
コマンド	get service hb vpn
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get service hb vpn ↵　　←コマンドを入力 1　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-7-41 WANハートビートのタイムアウト回数

設定

全機種

機能	WAN ハートビートのタイムアウト回数を設定します。
コマンド	set service hb count
パラメータ	第 1 パラメータ： タイムアウト回数
動作	実行例： RX> set service hb count 10 ↵ ←コマンドを入力 RX>
初期値	10

取得

全機種

機能	WAN ハートビートのタイムアウト回数を取得します。
コマンド	get service hb count
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get service hb count ↵ ←コマンドを入力 10 ←現在の設定内容が出力される RX>

3-7-42 パケット通信ログの使用

設定

全機種

機能	パケット通信ログを使用するかどうかを設定します。
コマンド	set service log use_packet
パラメータ	第 1 パラメータ： 使用設定（0：使用しない、1：使用する）
動作	実行例： RX> set service log use_packet 1 ↵ ←コマンドを入力 RX>
初期値	0

取得

全機種

機能	パケット通信ログ使用設定の設定値を取得します。
コマンド	get service log use_packet
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get service log use_packet ↵ ←コマンドを入力 1 ←現在の設定内容が出力される RX>

3-7-43 Syslogサーバへの送信設定

設定

全機種

機能	Syslog サーバに送信するかどうかを設定します。
コマンド	`set service log server`
パラメータ	第 1 パラメータ：　送信設定（0：送信しない、1：送信する）
動作	実行例： `RX> set service log server 1 ↵` ←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0

取得

全機種

機能	Syslog サーバへの送信設定の設定値を取得します。
コマンド	`get service log server`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get service log server ↵` ←コマンドを入力 `1` ←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-7-44 SyslogサーバのIPアドレス

設定

全機種

機能	Syslog サーバの IP アドレスを設定します。
コマンド	`set service log server_ip`
パラメータ	第 1 パラメータ：　Syslog サーバの IP アドレス（xxx.xxx.xxx.xxx）
動作	実行例： `RX> set service log server_ip 123.123.12.3 ↵` ←コマンドを入力 `RX>`
初期値	なし

取得

全機種

機能	Syslog サーバの IP アドレスを取得します。
コマンド	`get service log server_ip`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get service log server_ip ↵` ←コマンドを入力 `123.123.12.3` ←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-7-45 PPPログの使用

設定

全機種

機能	PPP ログを使用するかどうかを設定します。
コマンド	`set service log ppp`
パラメータ	第 1 パラメータ：　使用設定（0：使用しない、1：使用する）
動作	実行例： `RX> set service log ppp 1 ↵`　　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0

取得

全機種

機能	PPP ログ使用設定の設定値を取得します。
コマンド	`get service log ppp`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get service log ppp ↵`　　←コマンドを入力 `1`　　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-8 ネットワークの設定をする

3-8-1　IPsecパススルー機能の使用

設定

全機種

機能	IPsec パススルー機能を使用するかどうかを設定します。
コマンド	set network through ipsec
パラメータ	第 1 パラメータ：　使用設定（0：使用しない、1：使用する）
動作	実行例： RX> set network through ipsec 1 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	0

取得

全機種

機能	IPsec パススルー機能使用設定の設定値を取得します。
コマンド	get network through ipsec
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get network through ipsec ↵　　←コマンドを入力 1　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-8-2　PPTPパススルー機能の使用

設定

全機種

機能	PPTP パススルー機能を使用するかどうかを設定します。
コマンド	set network through pptp
パラメータ	第 1 パラメータ：　使用設定（0：使用しない、1：使用する）
動作	実行例： RX> set network through pptp 1 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	0

取得

全機種

機能	PPTP パススルー機能使用設定の設定値を取得します。
コマンド	get network through pptp
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get network through pptp ↵　　←コマンドを入力 1　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-8-3　スタティックルーティング

設定

全機種

機能	スタティックルーティングを設定します。
コマンド	`set network routing`
パラメータ	第 1 パラメータ：　設定番号（1〜128） 第 2 パラメータ：　ネットワークアドレス（xxx.xxx.xxx.xxx） 第 3 パラメータ：　サブネットマスク（xxx.xxx.xxx.xxx） 第 4 パラメータ：　ゲートウェイ（xxx.xxx.xxx.xxx） 第 5 パラメータ：　インターフェース（0：WAN、1：PPPoE、2：モバイル通信端末、3：IPsec、4：LAN） 第 6 パラメータ：　メモ
動作	使用しない場合の実行例： `RX> set network routing 1 NOTUSE ↵`　←コマンドを入力 `RX>` スタティックルーティングの設定例： `RX> set network routing 1 192.168.2.0 255.255.255.0 192.168.62.100 4 memo ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	なし
備考	NOTUSE の場合、第 3 パラメータ以降を省略してください。

取得

全機種

機能	スタティックルーティングの設定値を取得します。
コマンド	`get network routing`
パラメータ	第 1 パラメータ：　設定番号（1〜128）
動作	実行例： `RX> get network routing 1 ↵`　←コマンドを入力 `192.168.2.0 255.255.255.0 192.168.62.100 4 memo` `RX>`　↑現在の設定内容が出力される

3-8-4　FORWARDフィルタリングポリシーのモード

設定

全機種

機能	FORWARD フィルタリングポリシーのモードを設定します。
コマンド	`set network filtering mode`
パラメータ	第 1 パラメータ：　設定モード（0：未設定を通す、1：未設定を遮断する）
動作	実行例： `RX> set network filtering mode 0 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	1

取得

全機種

機能	FORWARD フィルタリングポリシーのモードの設定値を取得します。
コマンド	`get network filtering mode`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get network filtering mode ↵`　←コマンドを入力 `0`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-8-5　FORWARDフィルタリングリスト

設定

全機種

機能	FORWARD フィルタリングのリストを設定します。
コマンド	`set network filtering list`
パラメータ	第 1 パラメータ：　設定番号（1〜128） 第 2 パラメータ：　インターフェース（0：WAN、1：PPPoE、2：モバイル通信端末、4：全て） 第 3 パラメータ：　方向（0：受信、1：送信） 第 4 パラメータ：　動作（0：許可、1：遮断） 第 5 パラメータ：　プロトコル（0：すべて、1：UDP、2：TCP、3：ICMP、4：ユーザ指定） 第 6 パラメータ：　ユーザ指定プロトコル番号（0〜255、*：無指定） 第 7 パラメータ：　相手 IP アドレス（xxx.xxx.xxx.xxx、*：無指定） 第 8 パラメータ：　相手ポート番号・開始（0〜65535、*：無指定） 第 9 パラメータ：　相手ポート番号・終了（0〜65535、*：無指定） 第 10 パラメータ：メモ（16byte までの文字列、*：無指定）
動作	使用しない場合の実行例： `RX> set network filtering list 10 NOTUSE ↵`　←コマンドを入力 `RX>` FORWARD フィルタリングの設定例： `RX> set network filtering list 10 4 1 0 3 * 192.168.2.1 0 65535 sample ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	Rooster RX 取扱説明書の FORWARD フィルタリングのページを参照してください。
備考	• NOTUSE の場合、第 3 パラメータ以降を省略してください。 • 第 6 パラメータ以降で指定しない項目は、「*」を入力してください。 • 「ユーザ指定プロトコル番号」は、「プロトコル」で「4：ユーザ指定」を設定した場合にのみ設定してください。通常は指定しないでください。

取得

全機種

機能	FORWARD フィルタリングのリストの設定値を取得します。
コマンド	`get network filtering list`
パラメータ	第 1 パラメータ：　設定番号（1〜128）
動作	実行例： `RX> get network filtering list 10 ↵`　←コマンドを入力 `4 1 0 3 * 192.168.2.1 0 65535 sample`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-8-6　INPUTフィルタリングリスト

設定

全機種

機能	INPUT フィルタリングのリストを設定します。
コマンド	`set network infiltering list`
パラメータ	第 1 パラメータ：　設定番号（1〜64） 第 2 パラメータ：　動作（0：許可） 第 3 パラメータ：　プロトコル（1：UDP、2：TCP） 第 4 パラメータ：　相手 IP アドレス（xxx.xxx.xxx.xxx） 第 5 パラメータ：　ネットマスク（xxx.xxx.xxx.xxx） 第 6 パラメータ：　相手ポート番号・開始（0〜65535） 第 7 パラメータ：　相手ポート番号・終了（0〜65535） 第 8 パラメータ：　メモ（16byte までの文字列、*：無指定）
動作	使用しない場合の実行例： `RX> set network infiltering list 10 NOTUSE ↵`　←コマンドを入力 `RX>` INPUT フィルタリングの設定例： `RX> set network infiltering list 10 0 2 11.22.33.44 255.255.255.254 8080 8080 http ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	なし
備考	NOTUSE の場合、第 3 パラメータ以降を省略してください。

取得

全機種

機能	INPUT フィルタリングのリストの設定値を取得します。
コマンド	`get network infiltering list`
パラメータ	第 1 パラメータ：　設定番号（1〜64）
動作	実行例： `RX> get network infiltering list 10 ↵`　←コマンドを入力 `0 2 11.22.33.44 255.255.255.254 8080 8080 http` `RX>`　↑現在の設定内容が出力される

3-8-7　バーチャルサーバ

設定

全機種

機能	バーチャルサーバを設定します。
コマンド	`set network vs`
パラメータ	第 1 パラメータ：　設定番号（1～32） 第 2 パラメータ：　インターフェース（0：WAN、1：PPPoE、2：モバイル通信端末） 第 3 パラメータ：　プロトコル（1:UDP, 2:TCP, 3:all） 第 4 パラメータ：　開始ポート番号 第 5 パラメータ：　終了ポート番号 第 6 パラメータ：　サーバの IP アドレス（xxx.xxx.xxx.xxx） 第 7 パラメータ：　サーバのポート番号（0～65535、*：無指定） 第 8 パラメータ：　外部からのアクセス（0：すべて許可する、1：INPUT フィルタリングに従う） 第 9 パラメータ：　メモ（16byte までの文字列、*：無指定）

動作	使用しない場合の実行例：
	`RX> set network vs 1 NOTUSE ↵`　　←コマンドを入力
	`RX>`
	INPUT フィルタリングの設定例：
	`RX> set network vs 1 2 2 80 90 192.168.62.11 8080 1 HTTP ↵`
	`RX>`　　↑コマンドを入力

初期値	なし
備考	NOTUSE の場合、第 3 パラメータ以降を省略してください。

取得

全機種

機能	バーチャルサーバの設定値を取得します。
コマンド	`get network vs`
パラメータ	第 1 パラメータ：　設定番号（1～32）
動作	実行例： `RX> get network vs 1 ↵`　　←コマンドを入力 `2 2 80 90 192.168.62.11 8080 1 HTTP`　　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-8-8 DMZの使用

設定

全機種

機能	DMZ を使用するかどうかを設定します。
コマンド	`set network dmz use`
パラメータ	第 1 パラメータ： 使用設定（0：使用しない、1：使用する）
動作	実行例： `RX> set network dmz use 0 ↵` ←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0

取得

全機種

機能	DMZ 使用設定の設定値を取得します。
コマンド	`get network dmz use`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get network dmz use ↵` ←コマンドを入力 `0` ←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-8-9 DMZで使用する機器のプライベートIPアドレス

設定

全機種

機能	DMZ で使用する機器のプライベート IP アドレスを設定します。
コマンド	`set network dmz ip`
パラメータ	第 1 パラメータ： IP アドレス（xxx.xxx.xxx.xxx）
動作	実行例： `RX> set network dmz ip 192.168.62.13 ↵` ←コマンドを入力 `RX>`
初期値	なし

取得

全機種

機能	DMZ で使用する機器のプライベート IP アドレスを取得します。
コマンド	`get network dmz ip`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get network dmz ip ↵` ←コマンドを入力 `192.168.62.13` ←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-8-10 IPsecの設定

設定

全機種

機能	IPsec の設定をします。
コマンド	`set network ipsec list`
パラメータ	第 1 パラメータ：　設定番号（1～16） 第 2 パラメータ：　インターフェース（0：WAN、1：PPPoE、2：モバイル通信端末） 第 3 パラメータ：　相手 IP アドレス（xxx.xxx.xxx.xxx） 第 4 パラメータ：　相手ネットワーク（xxx.xxx.xxx.xxx） 第 5 パラメータ：　相手ネットマスク（xxx.xxx.xxx.xxx） 第 6 パラメータ：　モード（0：メインモード、1：アグレッシブモード） 第 7 パラメータ：　ハッシュアルゴリズム（0：MD5、1：SHA-1） 第 8 パラメータ：　暗号化アルゴリズム（0：3DES、1：AES256bit） 第 9 パラメータ：　PreSharedKey（半角 64 文字までの文字列） 第 10 パラメータ：セッションキープ（0：行わない、1：行う） 第 11 パラメータ：Rooster RX 側識別子（半角 64 文字までの文字列、*：無指定） 第 12 パラメータ：接続種別（0：イニシエータ、1：レスポンダ） 第 13 パラメータ：Rooster RX 側 IP アドレス（xxx.xxx.xxx.xxx、*：無指定） 第 14 パラメータ：Rooster RX 側ネットワーク（xxx.xxx.xxx.xxx、*：無指定） 第 15 パラメータ：Rooster RX 側ネットマスク（xxx.xxx.xxx.xxx、*：無指定） 第 16 パラメータ：相手側識別子（半角 64 文字までの文字列、*：無指定） 第 17 パラメータ：IKE Life Time（秒単位） 第 18 パラメータ：IPsec Life Time（秒単位） 第 19 パラメータ：キープアライブ（0：行わない、1：行う） 第 20 パラメータ：キープアライブ監視先 IP アドレス 1（*：無指定） 第 21 パラメータ：キープアライブ監視先 IP アドレス 2（*：無指定） 第 22 パラメータ：メモ（省略可能）
動作	使用しない場合の実行例： `RX> set network ipsec list 1 NOTUSE ↵` ←コマンドを入力 `RX>` IPsec の設定例： `RX> set network ipsec list 1 2 1.2.3.4 192.168.65.0 255.255.255.0 0 0 0 PRESHAREDKEY 0 testid2@test 0 9.8.7.6 192.168.62.0 255.255.255.0 testid1@test 3600 28800 1 192.168.65.100 * memo ↵` ←コマンドを入力 `RX>`
初期値	なし
備考	指定番号の設定を削除する場合、第 2 パラメータに NOTUSE と指定し、第 3 パラメータ以降を省略してください。 第 3・第 13 パラメータは文字列での設定も可能です。

取得

全機種

機能	IPsec の設定値を取得します。
コマンド	`get network ipsec list`
パラメータ	第 1 パラメータ：　設定番号（1～16）

動作	実行例：
	`RX> get network ipsec list 1 ↵` ←コマンドを入力
	`2 1.2.3.4 192.168.65.0 255.255.255.0 0 0 0 PRESHAREDKEY 0 testid2@test`
	`0 9.8.7.6 192.168.62.0 255.255.255.0 testid1@test 3600 28800 1`
	`192.168.65.100 * memo` ←現在の設定内容が出力される
	`RX>`

3-8-11 IPsecバックアップ

設定

全機種

機能	IPsec バックアップの設定をします。
コマンド	`set network ipsec backup list`
パラメータ	第 1 パラメータ：　設定番号（1～16） 第 2 パラメータ：　インターフェース（0：WAN、1：PPPoE、2：モバイル通信端末） ▶動作には無関係です。 第 3 パラメータ：　相手 IP アドレス（xxx.xxx.xxx.xxx） 第 4 パラメータ：　相手ネットワーク（xxx.xxx.xxx.xxx） 第 5 パラメータ：　相手ネットマスク（xxx.xxx.xxx.xxx） 第 6 パラメータ：　モード（0：メインモード、1：アグレッシブモード） 第 7 パラメータ：　ハッシュアルゴリズム（0：MD5、1：SHA-1） 第 8 パラメータ：　暗号化アルゴリズム（0：3DES、1：AES256bit） 第 9 パラメータ：　PreSharedKey（半角 64 文字までの文字列） 第 10 パラメータ：セッションキープ（0：行わない、1：行う） ▶動作には無関係です。 第 11 パラメータ：Rooster RX 側識別子（半角 64 文字までの文字列、*：無指定） 第 12 パラメータ：接続種別（0：イニシエータ、1：レスポンダ） ▶動作には無関係です。 第 13 パラメータ：Rooster RX 側 IP アドレス（xxx.xxx.xxx.xxx、*：無指定） 第 14 パラメータ：Rooster RX 側ネットワーク（xxx.xxx.xxx.xxx、*：無指定） 第 15 パラメータ：Rooster RX 側ネットマスク（xxx.xxx.xxx.xxx、*：無指定） 第 16 パラメータ：相手側識別子（半角 64 文字までの文字列、*：無指定） 第 17 パラメータ：IKE Life Time（秒単位） 第 18 パラメータ：IPsec Life Time（秒単位） 第 19 パラメータ：キープアライブ（0：行わない、1：行う） 第 20 パラメータ：キープアライブ監視先 IP アドレス 1（*：無指定） 第 21 パラメータ：キープアライブ監視先 IP アドレス 2（*：無指定） 第 22 パラメータ：メモ（省略可能）

動作	使用しない場合の実行例：
	`RX> set network ipsec backup list 1 NOTUSE ↵` ←コマンドを入力
	`RX>`
	IPsec の設定例：
	`RX> set network ipsec backup list 1 2 1.2.3.4 192.168.65.0 255.255.255.0`
	`0 1 0 PRESHAREDKEY 0 testid2@test 0 9.8.7.6 192.168.62.0 255.255.255.0`
	`testid1@test 3600 28800 1 192.168.65.100 * memo ↵` ←コマンドを入力
	`RX>`

初期値	なし

備考	指定番号の設定を削除する場合、第 2 パラメータに NOTUSE と指定し、第 3 パラメータ以降を省略してください。 IPsec が設定されている番号にのみ設定できます。 セッションキープに関しては、ここでの設定に関係なく IPsec（メイン）側の設定で動作します。 第 3・第 13 パラメータは文字列での設定も可能です。

取得

全機種

機能	IPsec バックアップの設定値を取得します。
コマンド	`get network ipsec backup list`
パラメータ	第 1 パラメータ： 設定番号（1～16）
動作	実行例：

```
RX> get network ipsec backup list 1 ↵          ←コマンドを入力
2 1.2.3.4 192.168.65.0 255.255.255.0 0 1 0 PRESHAREDKEY 0 testid2@test
0 9.8.7.6 192.168.62.0 255.255.255.0 testid1@test 3600 28800 1
192.168.65.100 * memo                          ←現在の設定内容が出力される
RX>
```

3-8-12 IPsecのキープアライブ時間

設定

全機種

機能	IPsec のキープアライブ時間を設定します。
コマンド	`set network ipsec keepalive_time`
パラメータ	第 1 パラメータ： キープアライブ時間（単位：秒）
動作	実行例：

```
RX> set network ipsec keepalive_time 10 ↵    ←コマンドを入力
RX>
```

初期値	10
備考	10 以上を設定してください。

取得

全機種

機能	IPsec のキープアライブ時間を取得します。
コマンド	`get network ipsec keepalive_time`
パラメータ	なし
動作	実行例：

```
RX> get network ipsec keepalive_time ↵       ←コマンドを入力
10                                           ←現在の設定内容が出力される
RX>
```

3-8-13 IPsecのキープアライブ回数

設定

全機種

機能	IPsec のキープアライブ回数を設定します。
コマンド	`set network ipsec keepalive_count`
パラメータ	第 1 パラメータ： キープアライブ回数
動作	実行例： RX> set network ipsec keepalive_count 6 ↵ ←コマンドを入力 RX>
初期値	6

取得

全機種

機能	IPsec のキープアライブ回数を取得します。
コマンド	`get network ipsec keepalive_count`
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get network ipsec keepalive_count ↵ ←コマンドを入力 6 ←現在の設定内容が出力される RX>

3-8-14 MACフィルタリングの使用

設定

全機種

機能	MAC フィルタリングを使用するかどうかを設定します。
コマンド	`set network macfiltering use`
パラメータ	第 1 パラメータ： 使用設定（0：使用しない、1：使用する）
動作	実行例： RX> set network macfiltering use 0 ↵ ←コマンドを入力 RX>
初期値	0

取得

全機種

機能	MAC フィルタリング使用設定の設定値を取得します。
コマンド	`get network macfiltering use`
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get network macfiltering use ↵ ←コマンドを入力 0 ←現在の設定内容が出力される RX>

3-8-15 MACフィルタリングの許可リスト

設定

全機種

機能	MAC フィルタリングの許可リストを設定します。
コマンド	`set network macfiltering list`
パラメータ	第 1 パラメータ：　設定番号（1～32） 第 2 パラメータ：　許可する MAC アドレス（xx:xx:xx:xx:xx:xx） 第 3 パラメータ：　メモ（*：無指定）

動作	使用しない場合の実行例：
	`RX> set network macfiltering list 1 NOTUSE ↵`　←コマンドを入力
	`RX>`
	MAC フィルタリングの許可リストの設定例：
	`RX> set network macfiltering list 1 00:00:00:00:00:00 memo ↵`
	`RX>`　↑コマンドを入力

初期値	なし

取得

全機種

機能	MAC フィルタリングの許可リストの設定値を取得します。
コマンド	`get network macfiltering list`
パラメータ	第 1 パラメータ：　設定番号（1～32）
動作	実行例： `RX> get network macfiltering list 1 ↵`　←コマンドを入力 `00:00:00:00:00:00 memo`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-8-16 PPTP認証方式（PAPの許可）

設定

全機種

機能	PPTP 認証方式で PAP を許可するかどうかを設定します。
コマンド	set network pptp auth pap
パラメータ	第 1 パラメータ：　許可設定（0：許可しない、1：許可する）
動作	実行例： RX> set network pptp auth pap 1 ↵　←コマンドを入力 RX>
初期値	0
備考	MS-CHAPv2 の設定を「許可する」にした場合、この設定は無効になります。

取得

全機種

機能	PPTP 認証方式の PAP 許可設定の設定値を取得します。
コマンド	get network pptp auth pap
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get network pptp auth pap ↵　←コマンドを入力 1　←現在の設定内容が出力される RX>

3-8-17 PPTP認証方式（CHAPの許可）

設定

全機種

機能	PPTP 認証方式で CHAP を許可するかどうかを設定します。
コマンド	set network pptp auth chap
パラメータ	第 1 パラメータ：　許可設定（0：許可しない、1：許可する）
動作	実行例： RX> set network pptp auth chap 1 ↵　←コマンドを入力 RX>
初期値	0
備考	MS-CHAPv2 の設定を「許可する」にした場合、この設定は無効になります。

取得

全機種

機能	PPTP 認証方式の CHAP 許可設定の設定値を取得します。
コマンド	get network pptp auth chap
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get network pptp auth chap ↵　←コマンドを入力 1　←現在の設定内容が出力される RX>

3-8-18 PPTP認証方式（MS-CHAPの許可）

設定

全機種

機能	PPTP 認証方式で MS-CHAP を許可するかどうかを設定します。
コマンド	`set network pptp auth mschap`
パラメータ	第 1 パラメータ：　許可設定（0：許可しない、1：許可する）
動作	実行例： `RX> set network pptp auth mschap 1 ↵` ←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0
備考	MS-CHAPv2 の設定を「許可する」にした場合、この設定は無効になります。

取得

全機種

機能	PPTP 認証方式の MS-CHAP 許可設定の設定値を取得します。
コマンド	`get network pptp auth mschap`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get network pptp auth mschap ↵` ←コマンドを入力 `1` ←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-8-19 PPTP認証方式（MS-CHAPv2の許可）

設定

全機種

機能	PPTP 認証方式で MS-CHAPv2 を許可するかどうかを設定します。
コマンド	`set network pptp auth mschap_v2`
パラメータ	第 1 パラメータ：　許可設定（0：許可しない、1：許可する）
動作	実行例： `RX> set network pptp auth mschap_v2 0 ↵` ←コマンドを入力 `RX>`
初期値	1
備考	この設定を「許可する」にした場合、PAP、CHAP、MS-CHAP の許可設定は無効になります。

取得

全機種

機能	PPTP 認証方式の MS-CHAPv2 許可設定の設定値を取得します。
コマンド	`get network pptp auth mschap_v2`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get network pptp auth mschap_v2 ↵` ←コマンドを入力 `0` ←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-8-20 PPTPクライアント割り当てIPアドレスの開始IPアドレス

設定

全機種

機能	PPTP のクライアント割り当て IP アドレスの開始 IP アドレスを設定します。
コマンド	set network pptp start_ip
パラメータ	第 1 パラメータ：　開始 IP アドレス（xxx.xxx.xxx.xxx）
動作	実行例： RX> set network pptp start_ip 192.168.62.100 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	なし

取得

全機種

機能	PPTP のクライアント割り当て IP アドレスの開始 IP アドレスを取得します。
コマンド	get network pptp start_ip
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get network pptp start_ip ↵　　←コマンドを入力 192.168.62.100　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-8-21 PPTPクライアント割り当てIPアドレスのアドレス個数

設定

全機種

機能	PPTP のクライアント割り当て IP アドレスの開始 IP アドレスからの個数を設定します。
コマンド	set network pptp ip_count
パラメータ	第 1 パラメータ：　個数
動作	実行例： RX> set network pptp ip_count 2 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	1

取得

全機種

機能	PPTP のクライアント割り当て IP アドレスの開始 IP アドレスを取得します。
コマンド	get network pptp ip_count
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get network pptp ip_count ↵　　←コマンドを入力 2　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-8-22 PPTPのリスト

設定

全機種

機能	PPTP リストの設定をします。
コマンド	`set network pptp list`
パラメータ	第 1 パラメータ：　設定番号（1〜16） 第 2 パラメータ：　ユーザ名（半角 64 文字までの文字列） 第 3 パラメータ：　パスワード（半角 64 文字までの文字列） 第 4 パラメータ：　メモ
動作	使用しない場合の実行例： `RX> set network pptp list 1 NOTUSE ↵`　←コマンドを入力 `RX>` PPTP リストの設定例： `RX> set network pptp list 1 user pass memo ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	なし

取得

全機種

機能	PPTP リストの設定値を取得します。
コマンド	`get network pptp list`
パラメータ	第 1 パラメータ：　設定番号（1〜16）
動作	実行例： `RX> get network pptp list 1 ↵`　←コマンドを入力 `user pass memo`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-8-23 L2TP/IPsecの使用

設定

全機種

機能	L2TP/IPsec を使用するかどうかを設定します。
コマンド	`set network l2tp_ipsec use`
パラメータ	第 1 パラメータ：　使用設定（0：使用しない、1：使用する）
動作	実行例： `RX> set network l2tp_ipsec use 0 ↵` ←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降	

取得

全機種

機能	L2TP/IPsec 使用設定の設定値を取得します。
コマンド	`get network l2tp_ipsec use`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get network l2tp_ipsec use ↵` ←コマンドを入力 `0` ←現在の設定内容が出力される `RX>`
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降	

3-8-24 L2TP/IPsecのIPsec暗号化方式

設定

全機種

機能	L2TP/IPsec の IPsec 暗号化方式を設定します。
コマンド	`set network l2tp_ipsec encrypt`
パラメータ	第 1 パラメータ：　使用設定（0：3DES、1：AES256bit）
動作	実行例： `RX> set network l2tp_ipsec encrypt 0 ↵` ←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降	

取得

全機種

機能	L2TP/IPsec の IPsec 暗号化方式の設定値を取得します。
コマンド	`get network l2tp_ipsec encrypt`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get network l2tp_ipsec encrypt ↵` ←コマンドを入力 `0` ←現在の設定内容が出力される `RX>`
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降	

3-8-25 L2TP/IPsecのIPsec認証方式

設定

全機種

機能	L2TP/IPsec の IPsec 認証方式を設定します。
コマンド	`set network l2tp_ipsec auth ipsec`
パラメータ	第 1 パラメータ： 使用設定（0：MD5、1：SHA-1）
動作	実行例： `RX> set network l2tp_ipsec auth ipsec 1 ↵` ←コマンドを入力 `RX>`
初期値	1
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降	

取得

全機種

機能	L2TP/IPsec の IPsec 認証方式の設定値を取得します。
コマンド	`get network l2tp_ipsec auth ipsec`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get network l2tp_ipsec auth ipsec ↵` ←コマンドを入力 `1` ←現在の設定内容が出力される `RX>`
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降	

3-8-26 L2TP/IPsecのPPP認証方式（PAPの許可）

設定

全機種

機能	L2TP/IPsec の PPP 認証方式で PAP を許可するかどうかを設定します。
コマンド	`set network l2tp_ipsec auth ppp pap`
パラメータ	第 1 パラメータ： 許可設定（0：許可しない、1：許可する）
動作	実行例： `RX> set network l2tp_ipsec auth ppp pap 1 ↵` ←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降	

取得

全機種

機能	L2TP/IPsec の PPP 認証方式の PAP 許可設定の設定値を取得します。
コマンド	`get network l2tp_ipsec auth ppp pap`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get network l2tp_ipsec auth ppp pap ↵` ←コマンドを入力 `1` ←現在の設定内容が出力される `RX>`
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降	

3-8-27 L2TP/IPsecのPPP認証方式（CHAPの許可）

設定

全機種

機能	L2TP/IPsec の PPP 認証方式で CHAP を許可するかどうかを設定します。
コマンド	`set network l2tp_ipsec auth ppp chap`
パラメータ	第 1 パラメータ：　許可設定（0：許可しない、1：許可する）
動作	実行例： `RX> set network l2tp_ipsec auth ppp chap 1 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降	

取得

全機種

機能	L2TP/IPsec の PPP 認証方式の CHAP 許可設定の設定値を取得します。
コマンド	`get network l2tp_ipsec auth ppp chap`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get network l2tp_ipsec auth ppp chap ↵`　←コマンドを入力 `1`　←現在の設定内容が出力される `RX>`
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降	

3-8-28 L2TP/IPsecのPPP認証方式（MS-CHAPの許可）

設定

全機種

機能	L2TP/IPsec の PPP 認証方式で MS-CHAP を許可するかどうかを設定します。
コマンド	`set network l2tp_ipsec auth ppp mschap`
パラメータ	第 1 パラメータ：　許可設定（0：許可しない、1：許可する）
動作	実行例： `RX> set network l2tp_ipsec auth ppp mschap 1 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降	

取得

全機種

機能	L2TP/IPsec の PPP 認証方式の MS-CHAP 許可設定の設定値を取得します。
コマンド	`get network l2tp_ipsec auth ppp mschap`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get network l2tp_ipsec auth ppp mschap ↵`　←コマンドを入力 `1`　←現在の設定内容が出力される `RX>`
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降	

3-8-29 L2TP/IPsecのPPP認証方式（MS-CHAPv2の許可）

設定

全機種

機能	L2TP/IPsec の PPP 認証方式で MS-CHAPv2 を許可するかどうかを設定します。
コマンド	set network l2tp_ipsec auth ppp mschap_v2
パラメータ	第 1 パラメータ： 許可設定（0：許可しない、1：許可する）
動作	実行例： RX> set network l2tp_ipsec auth ppp mschap_v2 0 ↵ ←コマンドを入力 RX>
初期値	1
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降	

取得

全機種

機能	L2TP/IPsec の PPP 認証方式の MS-CHAPv2 許可設定の設定値を取得します。
コマンド	get network l2tp_ipsec auth ppp mschap_v2
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get network l2tp_ipsec auth ppp mschap_v2 ↵ ←コマンドを入力 0 ←現在の設定内容が出力される RX>
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降	

3-8-30 L2TP/IPsecの事前認証キー

設定

全機種

機能	L2TP/IPsec の事前認証キーを設定します。
コマンド	set network l2tp_ipsec psk
パラメータ	第 1 パラメータ： 事前認証キー(半角 64 文字までの文字列)
動作	実行例： RX> set network l2tp_ipsec psk suncommkey ↵ ←コマンドを入力 RX>
初期値	なし
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降	

取得

全機種

機能	L2TP/IPsec の事前認証キーを取得します。
コマンド	get network l2tp_ipsec psk
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get network l2tp_ipsec psk ↵ ←コマンドを入力 suncommkey ←現在の設定内容が出力される RX>
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降	

3-8-31 L2TP/IPsecクライアント割り当てIPアドレスの開始IPアドレス

設定

全機種

機能	L2TP/IPsec のクライアント割り当て IP アドレスの開始 IP アドレスを設定します。
コマンド	`set network l2tp_ipsec start_ip`
パラメータ	第 1 パラメータ：　開始 IP アドレス（xxx.xxx.xxx.xxx）
動作	実行例： RX> set network l2tp_ipsec start_ip 192.168.62.100 ↵←コマンドを入力 RX>
初期値	なし
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降	

取得

全機種

機能	L2TP/IPsec のクライアント割り当て IP アドレスの開始 IP アドレスを取得します。
コマンド	`get network l2tp_ipsec start_ip`
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get network l2tp_ipsec start_ip ↵　←コマンドを入力 192.168.62.100　←現在の設定内容が出力される RX>
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降	

3-8-32 L2TP/IPsecクライアント割り当てIPアドレスのアドレス個数

設定

全機種

機能	L2TP/IPsec のクライアント割り当て IP アドレスの開始 IP アドレスからの個数を設定します。
コマンド	`set network l2tp_ipsec ip_count`
パラメータ	第 1 パラメータ：　個数
動作	実行例： RX> set network l2tp_ipsec ip_count 2 ↵　←コマンドを入力 RX>
初期値	1
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降	

取得

全機種

機能	L2TP/IPsec のクライアント割り当て IP アドレスの開始 IP アドレスを取得します。
コマンド	`get network l2tp_ipsec ip_count`
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get network l2tp_ipsec ip_count ↵　←コマンドを入力 2　←現在の設定内容が出力される RX>
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降	

3-8-33 L2TP/IPsecのリスト

設定

全機種

機能	L2TP/IPsec リストの設定をします。
コマンド	`set network l2tp_ipsec list`
パラメータ	第 1 パラメータ：　設定番号（1～16） 第 2 パラメータ：　ユーザ名（半角 64 文字までの文字列） 第 3 パラメータ：　パスワード（半角 64 文字までの文字列） 第 4 パラメータ：　メモ
動作	使用しない場合の実行例： `RX> set network l2tp_ipsec list 1 NOTUSE ↵` ←コマンドを入力 `RX>` L2TP/IPsec リストの設定例： `RX> set network l2tp_ipsec list 1 user pass memo ↵` ←コマンドを入力 `RX>`
初期値	なし
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降	

取得

全機種

機能	L2TP/IPsec リストの設定値を取得します。
コマンド	`get network l2tp_ipsec list`
パラメータ	第 1 パラメータ：　設定番号（1～16）
動作	実行例： `RX> get network l2tp_ipsec list 1 ↵` ←コマンドを入力 `user pass memo` ←現在の設定内容が出力される `RX>`
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降	

3-9 日時の設定をする

3-9-1　日時の設定

設定

全機種

機能	日時を設定します。
コマンド	`set date`
パラメータ	第１パラメータ：　時刻データ（YYYYMMDDhhmmss）
動作	実行例： `RX> set date 20130101120000 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	なし

取得

全機種

機能	日時を取得します。
コマンド	`get date`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get date ↵`　←コマンドを入力 `JST 2013/01/01 12:00:00`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-9-2　時刻の自動設定

設定

全機種

機能	時刻の自動設定を使用するかどうかを設定します。
コマンド	`set autotime use`
パラメータ	第１パラメータ：　使用設定（0：使用しない、1：使用する）
動作	実行例： `RX> set autotime use 0 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0

取得

全機種

機能	時刻自動設定の使用設定の設定値を取得します。
コマンド	`get autotime use`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get autotime use ↵`　←コマンドを入力 `0`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-9-3　時刻の取得方法

設定

全機種

機能	時刻の取得方法を設定します。
コマンド	`set autotime type`
パラメータ	第 1 パラメータ：　時刻取得方法（0：通信モジュールから取得する、1：NTP サーバから取得する）
動作	実行例： `RX> set autotime type 0 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	0

取得

全機種

機能	時刻の取得方法の設定値を取得します。
コマンド	`get autotime type`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get autotime type ↵`　←コマンドを入力 `0`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-9-4　時刻の更新間隔

設定

全機種

機能	時刻の更新間隔を設定します。
コマンド	`set autotime interval`
パラメータ	第 1 パラメータ：　時刻更新間隔（単位：時間）
動作	実行例： `RX> set autotime interval 24 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	24

取得

全機種

機能	時刻の更新間隔を取得します。
コマンド	`get autotime interval`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get autotime interval ↵`　←コマンドを入力 `24`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-9-5　プライマリNTPサーバ

設定

全機種

機能	プライマリ NTP サーバを設定します。
コマンド	`set autotime ntp_server1`
パラメータ	第 1 パラメータ：　NTP サーバのアドレス（半角 64 文字までの文字列）
動作	実行例： RX> set autotime ntp_server1 ntp.jst.mfeed.ad.jp ↵　←コマンドを入力 RX>
初期値	ntp.jst.mfeed.ad.jp

取得

全機種

機能	プライマリ NTP サーバを取得します。
コマンド	`get autotime ntp_server1`
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get autotime ntp_server1 ↵　←コマンドを入力 ntp.jst.mfeed.ad.jp　←現在の設定内容が出力される RX>

3-9-6　セカンダリNTPサーバ

設定

全機種

機能	セカンダリ NTP サーバを設定します。
コマンド	`set autotime ntp_server2`
パラメータ	第 1 パラメータ：　NTP サーバのアドレス（半角 64 文字までの文字列）
動作	実行例： RX> set autotime ntp_server2 ntp.nict.jp ↵　←コマンドを入力 RX>
初期値	ntp.nict.jp

取得

全機種

機能	セカンダリ NTP サーバを取得します。
コマンド	`get autotime ntp_server2`
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get autotime ntp_server2 ↵　←コマンドを入力 ntp.nict.jp　←現在の設定内容が出力される RX>

3-10　おやすみモードの設定をする

3-10-1 おやすみモードの使用

設定

全機種

機能	おやすみモードを使用するかどうかを設定します。
コマンド	set sleep use
パラメータ	第 1 パラメータ：　使用設定（0：使用しない、1：使用する）
動作	実行例： RX> set sleep use 0 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	0

取得

全機種

機能	おやすみモードの使用設定の設定値を取得します。
コマンド	get sleep use
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get sleep use ↵　　←コマンドを入力 0　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-10-2 おやすみモードの種別

設定

全機種

機能	おやすみモードの種別を設定します。
コマンド	set sleep type
パラメータ	第 1 パラメータ：　種別（0：待機時間満了によるサスペンド、1：スケジュールによるサスペンド）
動作	実行例： RX> set sleep type 0 ↵　　←コマンドを入力 RX>
初期値	0

取得

全機種

機能	おやすみモードの種別の設定値を取得します。
コマンド	get sleep type
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get sleep type ↵　　←コマンドを入力 0　　←現在の設定内容が出力される RX>

3-10-3 待機時間

設定

全機種

機能	待機状態からサスペンドになるまでの時間を設定します。
コマンド	`set sleep wait_time running`
パラメータ	第 1 パラメータ：　待機状態からサスペンドまでの時間（1～60 分）
動作	実行例： `RX> set sleep wait_time running 10 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	10
備考	おやすみモードの種別が 0 の場合にのみ設定値が有効になります。

取得

全機種

機能	待機状態からサスペンドになるまでの時間を取得します。
コマンド	`get sleep wait_time running`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get sleep wait_time running ↵`　←コマンドを入力 `10`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-10-4 スケジュール実行中の待機時間

設定

全機種

機能	スケジュールのサスペンド期間中にレジュームした際の待機状態からサスペンドになるまでの時間を設定します。
コマンド	`set sleep wait_time suspend_period`
パラメータ	第 1 パラメータ：　待機状態からサスペンドまでの時間（1～60 分）
動作	実行例： `RX> set sleep wait_time suspend_period 10 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	10
備考	おやすみモードの種別が 1 の場合にのみ設定値が有効になります。

取得

全機種

機能	スケジュールのサスペンド期間中にレジュームした際の待機状態からサスペンドになるまでの時間を取得します。
コマンド	`get sleep wait_time suspend_period`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> get sleep wait_time suspend_period ↵`　←コマンドを入力 `10`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-10-5 おやすみモードのスケジュールリスト

設定

全機種

機能	おやすみモードのスケジュールリストを設定します。
コマンド	`set sleep list`
パラメータ	第 1 パラメータ：　管理番号（1～7） 第 2 パラメータ：　サスペンド曜日（1：月曜日、2：火曜日、3：水曜日、4：木曜日、5：金曜日、6：土曜日、7：日曜日） 第 3 パラメータ：　サスペンド時刻（HHMM） 第 4 パラメータ：　レジューム曜日（1：月曜日、2：火曜日、3：水曜日、4：木曜日、5：金曜日、6：土曜日、7：日曜日） 第 5 パラメータ：　レジューム時刻（HHMM）
動作	使用しない場合の実行例： `RX> set sleep list 1 NOTUSE ↵`　←コマンドを入力 `RX>` おやすみモードのスケジュールリストの設定例： `RX> set sleep list 1 1 2200 2 0800 ↵`　←コマンドを入力 `RX>`
初期値	なし
備考	おやすみモードの種別が 1 の場合にのみ設定値が有効になります。

取得

全機種

機能	おやすみモードのスケジュールリストの設定値を取得します。
コマンド	`get sleep list`
パラメータ	第 1 パラメータ：　管理番号（1～7）
動作	実行例： `RX> get sleep list 1 ↵`　←コマンドを入力 `1 2200 2 0800`　←現在の設定内容が出力される `RX>`

3-11 即時反映フラグを設定する

3-11-1 即時反映フラグ

設定

全機種

機能	即時反映フラグを設定します。
コマンド	set dynupdate
パラメータ	第１パラメータ： 即時反映設定（0：即時に反映させない、1：即時に反映させる）
動作	実行例： RX> set dynupdate 1 ↵ ←コマンドを入力 RX>
初期値	1
備考	本パラメータは揮発性で、設定は不揮発性メモリに保存されません。

取得

全機種

機能	即時反映フラグの設定値を取得します。
コマンド	get dynupdate
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> get dynupdate ↵ ←コマンドを入力 1 ←現在の設定内容が出力される RX>

4章 情報表示コマンドの詳細

この章では、Rooster RX の設定内容を表示するための show コマンドの書式、パラメータ、実行例について説明します。

4-1 MACアドレスを表示する

全機種

機能	本体の MAC アドレスを表示します。
コマンド	show mac
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> show mac ↵ ←コマンドを入力 lan=00:05:7D:0A:00:04 ←LAN 側 MAC アドレスが出力される RX>

4-2 すべての設定内容を表示する

全機種

機能	設定内容の一覧を表示します。
コマンド	show config
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> show config ↵ ←コマンドを入力 メモ:同じ設定にする場合、以下の内容をコピーペーストすることで設定できます。 その際、'#'のコメントマークを削除してください。 ←メモが出力される #set dynupdate 0 ←設定内容の一覧が出力される set sleep use 0 set sleep type 0 set sleep wait_time running 10 ... ... set autoreboot soft fri 0 set autoreboot soft sat 0 set autoreboot soft sun 0 #save RX>
備考	出力内容は、そのまま設定に用いることができます。たとえば、他の Rooster RX のコンソールに出力内容をコピーペーストすることで、同じ設定内容の Rooster RX を作成できます。 ▶出力内容を設定に用いる際は、最初のメモとコメントマークの「#」を削除してご使用ください。

4-3 ARPテーブルを表示する

全機種

<table>
<tr><td>機能</td><td>ARP テーブルを表示します。</td></tr>
<tr><td>コマンド</td><td><code>show arp</code></td></tr>
<tr><td>パラメータ</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>動作</td><td>実行例：
<pre>
RX> show arp ↵   ←コマンドを入力
処理中です...   ←ARP テーブル一覧が出力される
Address   HWtype HWaddress   Flags Mask Iface
192.168.62.50 ether   00:05:7D:04:13:E1   C   eth0
...
...
...
192.168.1.59   ether   00:05:7D:04:13:EF   C   eth0
RX>
</pre></td></tr>
</table>

4-4 モバイル通信端末の情報を表示する

4-4-1　電話番号を表示する

全機種

機能	モバイル通信端末の電話番号を表示します。
コマンド	`show mobile telno`
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> show mobile telno ↵　　←コマンドを入力 TELNO:090********　　←電話番号が出力される RX>

4-4-2　アンテナレベルを表示する

RX110　RX180

機能	モバイル通信端末の現在のアンテナレベルと電波品質を表示します。
コマンド	`show mobile antlvl`
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> show mobile antlvl ↵　　←コマンドを入力 ANTLVL:10,2　　←アンテナレベルが出力される RX>
備考	取得できた場合、「ANTLVL:＜数値＞,＜数値＞」と出力されます。 1 つ目の数値は電波強度で、範囲は以下の通りです。 0：　-113dBm 以下 1：　-111dBm 2～30：　-109dBm～-53dBm 31：　-51dBm 以上 99：　圏外、計測不能 2 つ目の数値は電波品質で、範囲は以下の通りです。 0：　0～-2.5 dB 1：　-2.6～-5.5 dB 2：　-5.6～-8.5 dB 3：　-8.6～-11.5 dB 4：　-11.6～-14.5 dB 5：　-14.6～-17.5 dB 6：　-17.6～-20.5 dB 7：　-20.6～-24 dB 99：　圏外、計測不能 出力される数値が小さいほど、電波品質は良くなります。 取得に失敗した場合、「ANTLVL:」のみが出力されます。
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降	

RX130

機能	モバイル通信端末の現在のアンテナレベルを表示します。
コマンド	show mobile antlvl
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> show mobile antlvl ↵　　←コマンドを入力 ANTLVL:3　　←アンテナレベルが出力される RX>
備考	取得できた場合、「ANTLVL:＜数値＞」と出力されます。 数値の範囲は、以下の通りです。 0：圏外 1：アンテナ１本 2：アンテナ２本 3：アンテナ３本 取得に失敗した場合、「ANTLVL:」のみが出力されます。

RX160

機能	モバイル通信端末の現在のアンテナレベルを表示します。
コマンド	show mobile antlvl
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> show mobile antlvl ↵　　←コマンドを入力 ANTLVL:3　　←アンテナレベルが出力される RX>
備考	取得できた場合、「ANTLVL:＜数値＞」と出力されます。 数値の範囲は、以下の通りです。 0：圏外 1：アンテナ０本 2：アンテナ１本 3：アンテナ２本 4：アンテナ３本 5：アンテナ４本 取得に失敗した場合、「ANTLVL:」のみが出力されます。

RX210

<table>
<tr><td>機能</td><td>モバイル通信端末の現在のアンテナレベルと電波品質を表示します。</td></tr>
<tr><td>コマンド</td><td><code>show mobile antlvl</code></td></tr>
<tr><td>パラメータ</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>動作</td><td>実行例：<pre>RX> show mobile antlvl ↵   ←コマンドを入力
ANTLVL:10,-4   ←アンテナレベルが出力される
RX></pre></td></tr>
<tr><td>備考</td><td>取得できた場合、「ANTLVL:＜数値＞,＜数値＞」と出力されます。
1 つ目の数値は電波強度で、範囲は以下の通りです。
0：　-113dBm 以下
1：　-111dBm
2～30：　-109dBm～-53dBm
31：　-51dBm 以上
99：　圏外、計測不能

2 つ目の数値は電波品質で、単位は dB です。
値が大きい(0 に近い)ほど電波品質は良くなります。

取得に失敗した場合、「ANTLVL:」のみが出力されます。</td></tr>
</table>

4-4-3 モバイル通信端末情報一覧を表示する

全機種

機能	モバイル通信端末情報一覧を表示します。
コマンド	show mobile devinfo
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> show mobile devinfo ↵ ←コマンドを入力 MODEL:UM03-KO ←モバイル通信端末のモジュール名称 VER:1.01 ←モバイル通信端末の FW バージョン IMEI:358901046289226 ←モバイル通信端末の IMEI 値 ICCID:8981300992000026888 ←モバイル通信端末の ICCID 値 TELNO:09012345678 ←モバイル通信端末の電話番号 RX>
備考	取得不可な項目は、空欄（何もなしで改行のみ）となる。
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

4-4-4 端末識別番号情報を表示する

全機種

機能	モバイル通信端末の端末識別番号情報（IMEI）を表示します。
コマンド	show mobile imei
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> show mobile imei ↵ ←コマンドを入力 0049990106XXXXX ←端末識別番号情報が出力される RX>

4-4-5 緊急速報受信件数を表示する

RX130

機能	新たに受信した緊急速報の件数と、最終受信時刻を表示します。
コマンド	show mobile warnmsg count
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> show mobile warnmsg count ↵ ←コマンドを入力 1,2013/12/13 14:15:16 ←緊急速報件数と最終受信日時が出力される RX>
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

4-4-6　位置測位情報を表示する

RX160

機能	現在地の緯度、経度、標高を表示します。
コマンド	`show mobile locate`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> show mobile locate ↵`　←コマンドを入力 `LOCATE:+35.70000,+139.77616,17`　←緯度、経度、標高が出力される `RX>`
備考	取得できた場合、「LOCATE:<緯度>, <経度>,<標高>」と出力されます。 数値の範囲等は、以下の通りです。 <緯度> -90.00000 ～ +90.00000 degree 設定時の緯度。小数点以下 5 桁まで表示。 北緯(+)南緯(-) (ex. +35.36000) <経度> -180.00000 ～ +180.00000 degree 設定時の経度。小数点以下 5 桁まで表示。 東経(+)西経(-) (ex. +138.72800) <標高> -999～9999 海抜高度。メートル単位。 取得不可時はブランク。 取得に失敗した場合、「LOCATE:」のみが出力されます。
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.4.0 以降	

4-4-7　使用周波数を表示する

RX110　RX180　RX210

機能	モバイル通信端末が使用している電波の周波数を表示します。
コマンド	`show mobile freq`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> show mobile freq↵`　←コマンドを入力 FREQ：1947.6　←使用周波数（MHz）が出力される `RX>`
備考	取得できた場合、「FREQ：<周波数>」と出力されます。 単位は、MHz です。 取得に失敗した場合、「FREQ：」のみが出力されます。
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.5.0 以降	

4-4-8　使用ネットワークサービスを表示する

RX210

機能	モバイル通信端末が現在使用しているネットワークサービスを表示します。
コマンド	`show mobile networkmode`
パラメータ	なし
動作	実行例： `RX> show mobile networkmode ↵`　←コマンドを入力 `NETWORKMODE:LTE`　←ネットワークサービスが出力される `RX>`
備考	取得できた場合、「NETWORKMODE:＜文字列＞」と出力されます。 出力される文字は以下の通りです。 ・3G ・LTE 取得に失敗した場合、「NETWORKMODE:」のみが出力されます。

4-5 ログを表示する

4-5-1 ログを表示する

全機種

機能	ログを表示します。
コマンド	show log
パラメータ	第 1 パラメータ： ログ表示対象（session、block、mobile、wan、ipsec、pptp、l2tp_ipsec、address、dhcp、hb、system、ppp）
動作	実行例： RX> show log system ↵ ←コマンドを入力 1 : 2008/08/04 09:48:10 - 'ログシステムの開始' ←ログが出力される 2 : 2008/08/04 09:48:15 - 'NTP サービスを開始します' 3 : 2008/08/04 09:48:15 - ' NTP サーバ名 : ntp.jst.mfeed.ad.jp / ntp.nict.jp' 4 : 2008/08/04 09:48:16 - ' NTP 間隔: 86400 秒' 5 : 2008/08/04 09:48:18 - 'NTP サービスで時刻取得に成功しました' 6 : 2008/08/04 09:49:33 - 'telnet にアクセスがありました [192.168.62.50]' 7 : 2008/08/04 09:49:37 - 'telnet にログインしました [192.168.62.50]' 8 : 2008/08/04 10:20:49 - 'telnet にアクセスがありました [192.168.62.50]' 9 : 2008/08/04 10:20:54 - 'telnet にログインしました [192.168.62.50]' RX>
※第 1 パラメータの l2tp_ipsec は、Version 1.4.0 以降	

4-5-2 緊急速報を表示する

RX130

機能	受信した緊急速報を表示します。
コマンド	show log warnmsg
パラメータ	第 1 パラメータ： ログ番号（無しの場合、一覧を出力します）
動作	実行例： RX> show log warnmsg ↵ ←コマンドを入力 1 : 2013/11/11 01:02:03 ←一覧を出力 2 : 2013/11/12 04:05:06 3 : 2013/11/13 07:08:09 RX> show log warnmsg 1 ↵ ←コマンドを入力 暴風雨による避難命令が発令されました。 ←No.1 のログを出力 速やかに避難先に逃げてください。 RX>
※対象ファームウェアバージョン：Version 1.2.0 以降	

4-6 ステータスを表示する

全機種

機能	ステータスを表示します。
コマンド	`show status`
パラメータ	第１パラメータ：　以下の表示対象 lan　- LAN ポートの状態 wan　- WAN ポートの状態 mobile　- モバイル通信端末の状態 ipsec　- IPsec の状態 pptp　- PPTP の状態 l2tp_ipsec　- L2TP/IPsec の状態 ntp　- NTP の状態 hb　- WAN ハートビートの状態 address　- 名前解決サービスの状態 telnet　- telnet サービスの状態 web　- Web サービスの状態 snmp　- SNMP サービスの状態 dns　- DNS サービスの状態 dhcp　- DHCP サービスの状態 route　- ルーティングの状態 log　- ログサービスの状態

動作	実行例：
	`RX> show status lan ↵`　←コマンドを入力
	`STATE=動作中 LINK= negotiated 100baseTx-FD, link ok`
	↑ステータスが出力される
	`RX>`

※第１パラメータの l2tp_ipsec は、Version 1.4.0 以降	

4-7 温度情報を表示する

全機種

機能	温度センサーの温度情報（2 系統）を表示します。
コマンド	show templ
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> show templ ↵　　←コマンドを入力 30.2 34.4　　←温度情報が出力される RX>

4-8 電源電圧情報を表示する

全機種

機能	電源電圧の電圧情報を表示します。
コマンド	show volt
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> show volt ↵　　←コマンドを入力 10.5　　←電圧情報が出力される RX>

4-9 シリアル番号を表示する

全機種

機能	RoosterRX のシリアル番号を表示します。
コマンド	show serialnum
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> show serialnum ↵　　←コマンドを入力 A1234　　←製品番号情報が出力される RX>
備考	本体の製造番号下 5 桁が出力されます。

4-10 日時情報を表示する

全機種

機能	日時情報を表示します。
コマンド	show date
パラメータ	なし
動作	実行例： RX> show date ↵　　←コマンドを入力 JST 2013/07/04 16:06:47　　←日時が出力される RX>

最新情報の入手

Rooster RX に関する最新情報は、弊社ホームページから入手することができます。また、バージョンアップ情報につきましても公開しております。

- 製品紹介ページ

http://www.sun-denshi.co.jp/sc/rx/

ご質問・お問い合わせ

Rooster RX に関するご質問やお問い合わせは、下記へご連絡願います。

ユーザーサポートセンター

- 電話　　0587-55-0161
- FAX　　0587-55-0815
- メール　　support-suncomm@sun-denshi.co.jp
- 受付時間　　月曜～金曜　10:00～16:00（12:00～13:00 を除く）
祝日、弊社休日を除く

Rooster RX
TELNET 設定機能説明書　**Ver.1.6.0**

サン電子株式会社
2015 年 9 月発行　(150911)